平成２３年度

学級経営ハンドブック

鳥取市小教研特別活動部会

目　次

はじめに

「学級経営ハンドブック」の内容と活用について・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

学級経営の心得・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

人間関係づくりのアイデア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

学級目標づくりのアイデア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７

係活動のアイデア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１３

清掃活動のアイデア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２１

給食指導のアイデア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２５

リーダー育成のアイデア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２９

縦割り活動のアイデア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３５

教室掲示のアイデア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３９

ルールづくりのアイデア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４３

話合いの手立て・アイデア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４７

おわりに

「学級経営ハンドブック」の内容と活用について

１　作成の意図

まず、ご自分の新任教師時代を思い起こしていただきたい。先輩教師にどの様に関わってもらっていたのだろう。日直見回りの途中先輩の教室で、または丸ストーブを囲みパンを焼きながら夜遅くまで、「言葉が難しくてわからんのじゃないか。」「掃除の仕方を教えてやらんと、遊んどるぞ。」「発問を工夫せんと、自分で言って自分で答えとるぞ。教師が自分に授業してどうするん。」等々、親身になって生意気な若造を鍛えてくださっていたのではなかろうか。しかし、こうした光景は、今後見られなくなる可能性もある。なぜなら、**「大量退職の時代を迎える」**からである。

鳥取県内の公立学校では、平成２４年度末から定年退職者が増え始める。平成２５年度には７０人程度、２７年度には１００人程度、２９年度には１１０人程度の退職が見込まれている。そうなると、若手の教員が一気に増えて一見活気が出るようにも思えるが、「教員文化の継承」という点からすると、重大な問題をはらむ。連綿と受け継がれてきた優れた教員文化が、受け継がれないまま消えてしまうことも予想される。事実都会での事態は深刻である。だからこそ、こうした「学級経営ハンドブック」の作成作業を通して、**優れた教員文化を受け継ぎ、次世代につないでいく**ことが必要なのである。

ただし、当然本書だけですべてが網羅できるものではない。本書をきっかけに、**学級経営や特別活動についてより深く学ぼうとし、教師同士の学び合いが進展していくこと**が、もう一つの作成の意図である。

２　構成の特徴

本書の特徴は、以下の３点が挙げられる。

① **指導内容別に構成しているため、ニーズに応じて読める。**

　指導内容別に１０の活動を取り上げている。いずれも学級経営や特別活動では中心となる内容である。また、年度当初からあるいは途中からでも読みやすいように、指導内容別に構成を工夫している。

② **各学級で直ぐ取り組めるアイデアが豊富。**

　ほぼすべてのアイデアが実際に鳥取市内で取り組まれているアイデアであるため、いきさつや方法の詳細等問い合わせが可能。また、直ぐ取り組めるように具体的な手順を示している。

③ **活動ごとの意味づけが明確。**

　すぐ使える活動のアイデアばかりを求めがちになるが、何よりも「その活動がなぜ必要なのか」「その活動を何のためにさせるのか」という意義や構えをしっかりもつことが大切。そこで大まかには、意義→具体的活動・アイデア→留意点という活動の流れに沿って記述している。

学級経営の心得

１　学級経営と特別活動

学級経営とは、**教師が「学級集団の育成を通して自己実現を支援する」営み**であり、個々の教育課題（授業、指導計画、係委員会活動等）と発達課題（児童理解、集団活動、リーダー育成等）が達成できるように、計画・運営することである。

特別活動は、「望ましい集団活動を通して」ということを前提として実践的な集団活動を行うことを特質とするため、学級経営での位置づけは大きい。**特別活動も学級経営も「集団活動」を方法原理としている**ためである。つまり、特別活動がしっかりできていることが、学級経営の安定につながる。**特別活動まるごと学級経営**と言われる所以である。

2 学級経営の心得

学級経営を進めていく上では、押さえておきたい心得がある。なぜなら、**「心得ておくと見方が変わる。見方が変わると態度が変わる。態度が変わると行動が変わる。行動が変わると学級が変わる。」**からである。

心得その１
学級は生き物・生もの

学級は**生き物のごとく成長する**。放っておくと病気にもなる。上手く指導していけば、一斉に笑ったり考えたり活動したりし、明確な意思さえもつようになる。そして、学級は**生もの**である。手早く調理をすると素晴らしい味を出すが、何もしないとすぐ腐る。しかもこの生ものには**旬**がある。**時期とタイミング**をはずさなければ、とてつもなく進化する。学級は、生き物で生ものだと思って扱うことが大切だと心得たい。

心得その２
終わりのイメージを詳細に

「凄い学級を創るぞ！」とホームランねらいで意気込むよりは、**「そこそこの学級」**をねらい、ポテンヒットでもバントでも出塁を増やす工夫を積み重ねた方が気持ちは楽。ただし、４月当初から**「最終的にどんなことを言ったり、したり、書いたりする子どもたちにしたいのか」**という**「終わり（到達）のイメージ」**を**詳細に描く**ことにこだわっていくことが大切だと心得たい。４月から詳細なイメージが描けるようになると、学級経営の力量はかなり高いと評価できる。

心得その３
競争より共創

学習や生活にある程度の競争を仕組むことは必要だが、バランスを欠くと「狂育」になる。そこで、子どもたちの考えやアイデアを採り入れ、**学級経営に参画させ**、教師と共に学級を創る**「共創」**の方向を目指したい。そうすると、教師も子どもも判断し表現する場が増えるため、**失敗も増えるが、力もついてくる**。

ただし「共創」するためには、教師自身に**明確な見通しと相当の時間と手間をかける覚悟**が必要になる。それでも挑むのは、子どもたちがみるみるうちに変容していくからである。今後は**「共創」の学級経営に挑み続ける**ことが大切だと心得たい。

心得その４
３つの門がまえ

学級担任は、経験年数に関わらず、良いことも悪いことも抱え込み、「閉じる」傾向が強い。「閉じる」と、外からの評価が嫌みに聞こえたり、判断が自分勝手になったりするため、いわゆる**危機管理意識が低くなる**。そうなると学級経営はおぼつかない。

そこで、**「内（自分・学級内）にも外（保護者・地域）にも開く」**ことを心がけたい。具体的には**「聞く」こと＝情報を仕入れること**、と**「問う」こと＝良いことも悪いこともできるだけオープンにすること**である。担任になったその日から、毎日学級の窓を**「開」**いて、自分を含めた大勢の人の声を**「聞」**き、したことを世に**「問」**うことが大切だと心得たい。

人間関係づくりのアイデア

1　人間関係づくりの意義

今回の学習指導要領改訂で特筆すべき点は、小・中・高すべての特別活動の指導要領に初めて「人間関係」という文言が使われたことである。しかも「人間関係」という言葉が示されているのは特別活動だけで、他の教科・領域には使われていない。また、目標だけでなく内容の取扱いにも「人間関係を形成する力を養う活動などを充実するように工夫すること」と示されている。

こうした背景には、人間関係づくりの苦手な子どもが増えているのに伴い、いじめや不登校が学校現場に広がっているという現状の深刻さをふまえ、早急に取り組むべき具体的な手立てを示すことが求められている。人間関係の作り方が分からないために友達とのコミュニケーションが上手にとれない子どもが多くなっている。こうした現状をふまえると、学校生活における「望ましい集団活動」を方法原理としてきた特別活動の重要性は、これまで以上に増すばかりである。

2　人間関係づくり実践上のポイント

人間関係づくりが苦手な子どもたちの多くは、人間関係づくりの**方法を知らない**のであり、その難しさや苦しさを乗り越えて得られる**喜びや感動する体験が少ない**のである。

こうした状況を打開するためには、意図的・計画的に様々な人間関係を仕組んでいく必要がある。それを仕掛けていけるのは、**教師しかない**のである。

そこで、実践上のポイントを以下に示す。

① 実態把握を丁寧に行う
② 子ども同士の教育力を使う
③ 集団力を高めて個を育てる

①の実態把握が出来るか否かは、子どもたちの人間関係づくりを左右する。実態把握の手段として、「Ｑ－Ｕ調査」「独りっ子調査（休憩時間に遊んだ友だちを書かせる）」や休憩時間の観察（普段遊んでいる集団の人員と関係性を図示しておく）などが挙げられる。

②は、教師の立ち位置を示している。人間関係をつくるのは子どもであって、教師ではない。教師がいくら「仲良くしなさい」と言っても、仲良くできるはずもない。教師が目一杯しゃべって教えたりガミガミ怒ったりするより、子ども同士が教え合ったり間違いを指摘し合ったりした方が、短時間で効果が表れる。もっと子ども同士の教育力を利用して学級集団を高める方法を指向すべきである。

③は、「個」と「集団」双方の指導のバランスをとりつつ、まず望ましい集団活動の経験を多く積ませ、その過程で自ら人間関係を調整しながら、最終的には自己の生き方について考えを深めるという指導の流れを示す。特別活動の目標にも示され、また特別活動の特質からも、「集団性の経験」をくぐらせて「個」の高まりをねらうのは、特別活動しかできないアプローチである。

３　人間関係づくりのアイデア

〈年度当初に行うと良いもの〉

（１）みんなの名前が入った学級歌を作ろう（対象学年：全学年）

①曲を決定する

誰もが知っている曲を選ぶ。（テレビの主題歌等　例・アンパンマン・ドラえもん・・）

②作詞をする

曲が決まったら歌詞作りに入る。学期始めの自分のめあて等を書く紙に、「自分のお気に入りの言葉」「大切にしたい言葉」等を集めて１番の歌詞を作る。

例：大丈夫！　やればできるよ！　一球入魂！　ファイト！　♪～
　　がんばって！　友情！　挑戦！　きずな！　スタート！　♪～
（アンパンマンのテーマ曲で）　～♪～♪♪～

２番の歌詞は、子どもの名前を「～さん」付けで出席番号順に並べる。曲が余ったら１番歌詞で繰り返しをさせたい部分を付け加える。

③歌う場面

帰りの会や宿泊学習等の行事で歌う。参観日に歌えば、保護者からも喜ばれる。

※　みんなが考えた言葉が歌詞の中に入っているので、「みんなの歌」という実感が持てる。

（２）『ありがとう』を教える　（対象学年：全学年）

①　２枚以上の配布用紙が全員分ある場合

②　最前列に配布し、後ろへの配り方を観察する。

③　おもむろに「今のやり方はダメです。前の人に返しなさい。」と言う。

④　最前列に帰ってきたところで、「渡し方を説明します。一番上の紙を一枚少しだけずらして、両手でもち、相手を見て、『はいどうぞ』と言って渡しなさい。」と説明する。

⑤　「やってごらん」と言ってやらせると、『はいどうぞ』に応えて『ありがとう』と応答する子があるので、その反応を見逃さない。

⑥　「『ありがとう』と応えた人がいました。すばらしい。『ありがとう』と言ってもらうと、誰でもうれしい顔になります。これから１年間『はいどうぞ』『ありがとう』をたくさん言い合える学級にしていこう。」と語りかける。

※　『ありがとう』という言葉は、人間関係をつなぐ大切な言葉だということを体験を通して教える。

（３）名前の木（対象学年：全学年）

①　例えば１年１組で行う場合、「いちねんいちくみ」と模造紙の真ん中に平仮名で書く。

②　自分の名前をそこにつなげることができれば書く。

③　最終的にはクラス全員の名前がつながり、大きな木になるようにする。

※　４月の学級始まりの時に行うと、「これからの１年間このメンバーでやっていくぞ！」という意識が高まる。クラスのつながりを感じることができる。

（４）人生ゲーム（対象学年：全学年）

①　人生ゲームの要領でサイコロを振り、出た数だけコマを進める。

②　１つ１つのマスには自己紹介につながるような内容の項目を書いておき、サイコロで進んだ場所に書いてある指令に従って話をする。

○指令の例

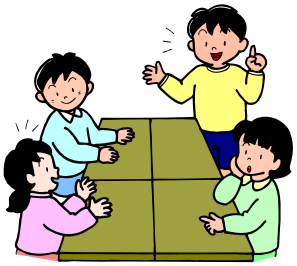
〈簡単なものでは〉

・自分の名前を大きな声で言う。
・好きな食べ物を言う。
・将来なりたいものを言う。など

〈少し難しいものでは〉

・好きな季節とその理由を言う。
・１度は行ってみたい国はどこか言う。
・心に残っている本の名前を言う。など

〈1年を通じて行えるもの〉



（１）友だちのよいところ見つけ（対象学年：上学年）

①　Ｂ４用紙の上部に、ネームペンで自分の名前を大きく書く。

②　机を大きく１つの円にし、友だちのよいところと自分の名前を書いて用紙を右に渡す。

「自分しか知らない○○さんのよいところ」「～なことをしてくれてうれしかった」等と言った具体的なエピソードを入れながら書くようにするとよい。

③　１周して自分のところに返ってきたら、「これは特にうれしいな」と思うコメントに印を付け、みんなで交流し合う。

※　教師自身が、児童のよい行いを常に記録しておくことも大切である。

（２）「わたし・ぼくはみんなとちがって 」クイズ（対象学年：上学年）

①　Ｂ５の半分程度の用紙を配布する。

②　用紙に自分の名前と自分しか知らないと思うエピソードを３つ記入する。

（例：３歳の時のお気に入りの映画は寅さんだった。等）

③　帰りの会などを利用してクイズをすることで、友だちを知ることにつながる。

※　３つ書けない児童は２つでも認める。書く内容は、すぐに人物が特定されるようなことや、人に知られたくないものなどは避ける。

（３）私はこんな人！？（対象学年：中・高学年）

自分について知ることができるとともに、他の人には、自分がどのように映っているのかを知ることができる。

①　「明るい」「元気」「優しい」等、１０程度の項目を用意した紙を配る。

②　自分が当てはまる項目に○印を３つ付ける。

③　班(学級)で自分以外の人についても、同じように○を３つ付ける。

④　最後に、本人にカードを返す。

※　自己分析ができるとともに、班(学級)のメンバーが自分のことをどう思っているのかを知ることができる。

（4）ハッピーバースデー（対象学年：全学年）

① 月ごとの行事とともに、児童の顔写真と誕生日を記したものを教室に掲示する。

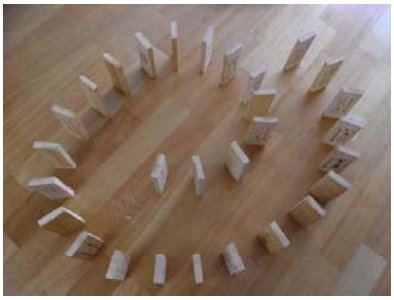
② 日直が「今日は、〇〇さんの誕生日なので、みんなでお祝いしましょう。」と言い、みんなで手拍子をしながら♪ happy birthday to you ♪を歌う。

③ 誕生日係の音頭で、牛乳パックを持って「おめでとう！」の乾杯をする。

④ 音楽係が、誕生日児童のリクエストに応じて曲を流す。

⑤ 誕生日係が、本人の誕生時のエピソードなどを取材して披露する。

＜協力することを自然に学ぶ活動例＞



（1） カマボコ板ドミノづくり

① クラスみんなで協力して、カマボコを食べた後の板を集める。（できるだけたくさんあるといい。）

② 教室や体育館などの広い場所で、みんなで協力をしてドミノを作る。

※ みんなで力を合わせることの大切さや、喜びを自然のうちに体験できる。

※ 板に言葉や絵を描くなど、工夫するとさらに楽しさＵＰ！

（2） メディシンボール

① 大勢が縦一列に同じ方向を向いて並ぶ。

② 大きなボールを頭上や足の間を通して次々に後ろへ渡す。

③ ボールを受け取った最後尾の人は、列の一番前までボールを持って移動し、同じ要領でボールを渡す。

（3） Ｘ人Ｙ脚

みなさんよくご存じのＸ人Ｙ脚。しかし、やってみると意外に難しい。

隣の人との肩の高さ、隣の人との腰の高さ、走ったときの歩幅等、上手に走るためのこつがたくさんある。何といっても大切なのは「みんなの気持ち」。

4 活用に向けて

本稿で紹介した実践はほんの一例に過ぎない。しかも、どれかを実践したからといって、子どもたちの人間関係が目に見えてよくなる訳でもない。

大切なことは、**些細なことでも取り入れ、学級の人間関係づくりに役立てようとする姿勢**であり、**取り入れたことを学級で実践し、自らの学級経営能力を高める**ことである。「ピンときた実践」があるということは、「伸びる芽がある」ということである。そんなときこそ、ぜひ

学級経営案を再構成

してみたい。実践してみたアイデアの良かった点と問題点をメモしておく程度で十分である。そうした簡単なＰＤＣＡのサイクルのくり返しの方が、子どもたちの人間関係づくりの力を伸ばしていくことにつながる。

学級目標づくりのアイデア

1　学級目標づくりの意義

学級目標は、教師が設定する学級経営上の目標とは異なる。子どもたちの自発的・自治的な活動の育成を目指してつくる「学級生活づくり」の目標である。学級経営目標が山だとすると、**学級目標は山頂に至るルート**をイメージするとわかりやすい。頂上は一つであっても、ルートは様々。学級集団の実態によって平易なルートを選択する場合もあれば、途中から難易度を高めてルートを変更する場合もある。要は**ルートを教師だけで設定してしまわないこと**である。登る山は（学級目標）は教師が決めるとしても、**ルート（学級目標）の設定に子どもたちを参画させる**と、学級集団づくりはかなり進展する。**他人事から自分事に意識が変わる**からである。

自分の足で山に登ろうとすると、必然的にルートのことが気になり始める。天候や装備についても気にし始めるだろう。さらには「みんなでそろって行くために、自分に出来ることはどんなこと？」「ルートからはずれないようにみんなに声をかけよう」というようなことも考え始める。そうなるとしめたもの。学級目標づくりにより、

① 集団規範意識を高める
② 学級の凝集性や学級への所属感を高める

ことが可能になるのである。

学級目標は、必ずなくてはならないものではない。しかし、ルートが子どもたちに見えるようになると、当然迷うこともなく、余裕をもって周りの風景を楽しみ、会話もはずみ、いかにも登るのが楽しくなるだろう。さらに自分たちでルートを開拓するようになったなら、学級集団としても、個人としても相当高いレベルに届いていることが分かる。そのとき教師は、喜んで登る山をさらに高い山に変えるであろう。つまり、学級目標づくりは、学級集団づくりのバロメーターにも成り得るのである。

2　学級目標づくりの留意点

☆　誰のためにつくるのか

学級目標は、教師の学級経営上の目標ではない。子どもたちの自発的・自治的な活動の育成を目指し、**子どもたちと共に**考えながら創る、**子どもたちの「学級の生活づくり」のための目標**であることを押さえたい。

☆　決める時期

早く決めればそれに越したことはないが、**早く決めることに固執する必要はない**。教師の働きかけに応えるように「もっと学級をよくしていきたい」「学級の問題を解決したい」というような思いや願いが出始めた時が、学級目標づくりに取りかかる時期。

☆　表現は様々

オリジナリティーのある表現だからよいわけではない。大切なのは、「どんな学級にしたいか」「一人一人の願いはどんなことか」などについて**話し合うこと**。形式的な表現でも十分。いくつあってもよい。当然、キャラクターやマークであってもよい。

☆ **こだわりすぎない**

学級目標ができたら、学級づくりが完成するわけではない。途中から変更することも多い。むしろ子どもたちから修正提案が出され、目標の文言を変えることは学級づくりにとって画期的なことである。一度確定した学級目標も**変わってこそ本物**になる。

3 学級目標づくりの手順および留意点

学級目標づくりは、限られた時間内に多くの業務が集中する年度初めに行われることが多いことを考えると、かなり段取りよく進める必要がある。

そこで、学級目標を子どもたちとのやりとりの中で創り上げることをイメージして以下のような手順を踏みたい。

＜始業式まで＞

（1） 学校・学年目標を理解する（背景、経緯、教育観だけでなく、重点的活動、ポイントになる行事などをつかむ)。

（2） 児童の実態（よさと課題）を前担任から引き継いでおく。

（3） 大まかな学級経営の方針、スケジュール、1年後の姿とそこにたどり着くまでにやってみたいことなどを考えておく。

＜始業式後＞

（1） 担任の思いや願いを語る。

（2） どんな学級にしたいのか、アンケートをとったり話し合ったりする。

＜4月中＞

（1） アンケートなどから、必ず教師が関わってキーワードを決める。

（2） 実行委員と教師とで原案をつくる。

（3） 原案をもとに学級で話し合う。

4 具体的なアイデア

＜その1＞ ～みんなの夢や願いを生かして～

① 新しい学級に対する願いや夢を集める【集約】

「どんな学級、どんな仲間になりたいかな」

例)・明るい　・楽しい　・仲のいい　・協力できる

② 子どもの願いや夢をまとめる【収束】

「みんなの願いがつまった学級目標を決めよう」

例)・げんき玉　・ペンギン　・こいのぼり

③ 願いや夢をイメージ化し、学級目標をつくる【創造】

例)・あつまれ　げんきだま　・ペンギンファイター　・ファイト一発こいのぼり

＜その2＞　～シンボルマークを生かして～

①　前学年までの振り返りをした上で、話合い活動によって、自分たちで創りたい学級像をイメージさせる。

②　学級像を具体的なものにするためには、どんなことをがんばらなくてはならないのかをリストアップしていく。

③　自分たちががんばる内容を短い言葉に表現してみる。（公募）

④　投票によって学級目標を決定する。

⑤　学級のシンボルマーク（旗）を考える。

＊学級目標は決めても、言葉だけになってしまうことがある。学級目標を決めた後に、もう一つそれに関わるような活動があると、学級の目標が子どもたちの心に根付く。

⑥　日直は、登校時に教室前廊下に掲揚し、下校時に後納する。

＜その3＞　～学年目標から学級目標に～

①　学校経営方針を受けた学年経営方針をさらに具現化し、学級経営方針を立てる。

②　学年目標を一言で表す言葉「学年訓」を決める。

例）「夢」「未来を信じて」

③「学年訓」を学級児童に伝える際に、学年目標とその言葉に含められる意図を熱く話す。

④　学年テーマに迫るための学級の合言葉について、話合う。

・突然話合っても、いい言葉や思いが出にくいので、③のあと２～３日おくとよい。連絡帳や学級便りなどに書いておくと家族ぐるみで話し合ってもらえるので、深い合言葉が生まれやすい。

⑤　学級の合言葉（学級目標）を決定する。

・あらかじめ、一人一つ考えて話合いに参加する。まず、班で推敲し、よりよいものをいくつか全体の場に出す。その際、友だちとの合作でもよい。

・全体での話合いは、担任が教育的配慮のもとで進行する。

・言葉について吟味し、全員納得の上で決定する。最終、多数決に頼ったとしても、反対意見の児童については、納得できるか、全体の場で確認する。

⑥　決定した学級の合言葉については、教室前面に掲示する。作成に当たっては、全員で手を加えて作成する。

＜その4＞　～みんなの思いを集めて～

①　始業式の日に「こんな学級だったらいいな」という願いを書く宿題を出す。短冊に書いて掲示する。

②　学級会でみんなの考えを出し合いながら、学級目標をまとめていく。

・最初は、グループで話し合ってもよい。

・担任の願いも取り入れながら考えさせる。

・みんなの考えや願いを分類し、まとめる。

（このとき、一人ひとりの願いを関連させ、みんなで作ったという意識を持たせる）

③　まとめた願いを短い言葉におきかえる。

例）「星空きらりっこ」「輝け８（はち）ックス」「言葉と心でキャッチボール」

④　学級目標を掲示する。
・子どもたちの手作り。
・キャラクターを作る
→　学級歌や学級旗も合わせて作成

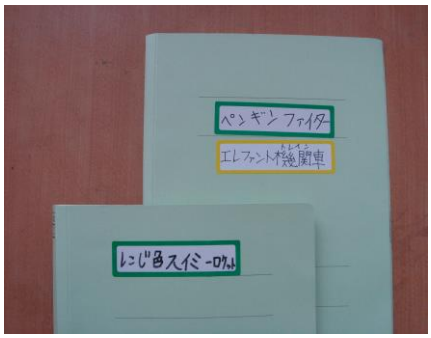
⑤　目標が達成できた日は、お祝いをする。
・目標をバージョンアップする。
・目標が子どもたちのものになっていない場合は、改めて話し合う。

！ ポイント ！

・目標の表現にあたっては、子どもの生活感覚に即したものにする。

・設定された目標が、日々の生活に反映されるように構想しておく。

5　生かそう！！学級目標　～学級目標を飾りにしないために～



○学級目標をタイトルに！

　学級通信、学級会ノート、自主学習ノート、総合的な学習ノートなど。

○学級歌、学級旗もいっしょにつくろう！

　集会活動（歌声集会）やお昼の放送などに取り入れ、学級歌を披露する場を設けるとよい。

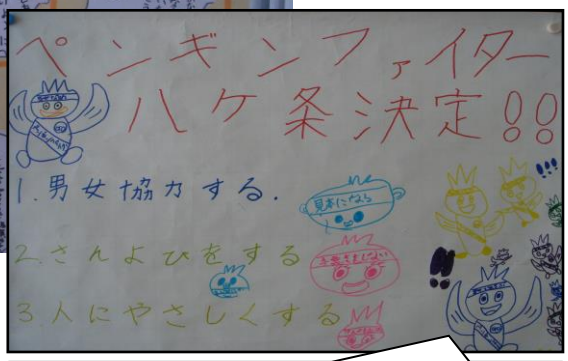
○学級コールに活用！

　朝の会や集会の時などに使うと、常に学級目標を意識することができる。また、気持ちも盛り上がる。

♪5－2　元気コール♪
ガッツだ　全力　なかよし5－2
みんな　大切　ミラクル元気
優しい心で　協力だ
力を合わせて　楽しくすごそう
夢に　向かって　突き進め！！

○普段の生活と振り返りに！

　学級目標を決めて掲示して終わりではなく、常に学級目標を決めたときの思いに立ち返る場を設定する。例えば、学級では友だち関係など様々な問題が日々起こってくる。そのようなとき、学級目標と関わるような問題であれば、学級目標に照らし合わせ、自分たちで解決させる。



毎日の振り返りに「学級カレンダー」を活用。帰りの会で、今日の「エレファント機関車（学級目標）」を決定。学級目標「エレファント機関車」に込められたみんなの願い「リーダーシップ・協力」にふさわしいみんなの行動や、個人の行動を振り返って記録し、学級の歩みとする。

日々起こる問題については、学級目標に照らし合わせ、自分たちで解決させる。自分たちで振り返り、自分たちで決めたことについては、守ろうとする意識が高まる。

○学級目標が誕生した時、達成できた時には、お祝いを！

お祝いのパーティーは、どんな「めあて」でするのかを考え、ただのお楽しみ会に終わらせない。例えば

学級目標「ペンギンファイター」と学級歌が誕生したお祝いのパーティーは、学級目標と学級歌の誕生日にふさわしいプログラムになっているか、学級目標に込めた願いの「男女協力」がプログラムに生かされているか、という視点で考える。

誕生日を祝い、これから「男女協力」でがんばっていこうというスピーチ。

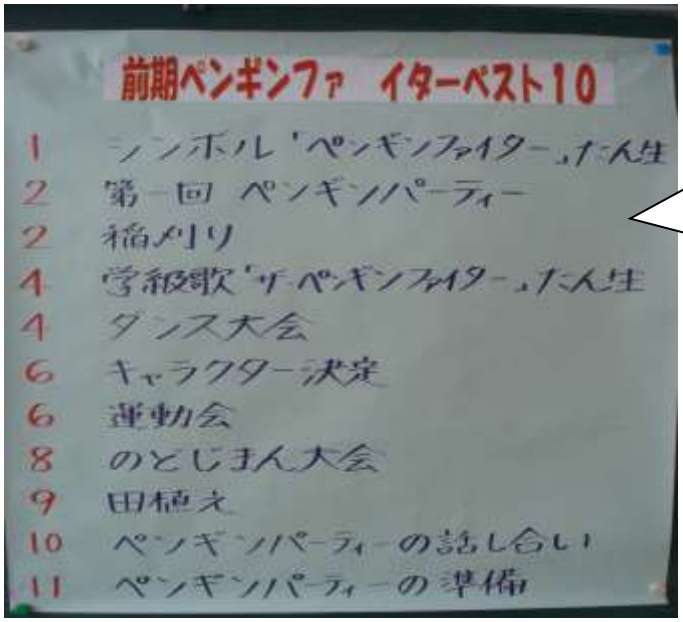
「男女協力」の願いを込めて、みんなで輪になり手をつないで歌う。

学級目標のシンボル「ペンギンファイター」をみんなで描いてみる「シンボルコンクール」

男女協力」できる遊びを計画。

男女協力」できる料理作り。

みんなで学級目標に向かってがんばる努力項目「ペンギンファイター八ヶ条」の決定。



<前期　思い出ベスト10>

例えば、第 2 回のパーティーのめあては「みんながペンギンファイターでがんばったお祝いをしよう」　プログラムの中に「思い出ベスト10」などを入れると、学級目標の振り返りができ、今後の意欲付けとなる。

学級の一員であるという所属感や学級目標に向かってがんばるという参加意欲が高まる工夫が大切。

係活動のアイデア

１　係活動の意義

係活動は、２つの内容を含んだ活動に分けられる。

○　学級生活を維持するために、**仕事を分担する当番**活動（以後、**当番**）

○　学級生活を豊かにするため、児童の**創意工夫によって行われる係**活動（以後、**係**）

当番は、日直の仕事や掃除当番、給食当番等、学級生活を維持していくための様々な仕事を分担しながら、毎日安全に気持ちよく学級生活を過ごしていくために欠かすことのできない活動である。

係は、より楽しく豊かな学級生活を目指して、自分たちでできる仕事を自分たちで見つけ出し、創意工夫することによって学級生活の充実と向上を図るための自発的・自治的な実践活動である。とりわけ、自分の考えやアイデア・特技を生かしやすいというメリットを利用して係の活性化を意図すると、活動への自主的な取り組みの様子や各自の成長過程が見取りやすくなり、結果として学級集団の高まりにつながっていく。

また、キャリア教育の視点から係活動に対する期待も大きい。学級の一員としての役割活動は、キャリア教育が求める**正しい勤労観の基盤づくりに直結する**活動である。

２　当番と係

当番と係の活動内容、主な仕事を以下に示す。

	活動内容	主な仕事
当番	学級生活を維持するために学級全体に奉仕する活動。仕事を分担して輪番で行ったり一人一仕事を設定したりする場合もある。	日直の仕事…朝・帰りの会の司会、黒板拭き、配り物＆先生への連絡、机椅子の整頓、戸締り、学級日誌の記録…等。
		給食当番の仕事
		掃除当番の仕事…等。
係	児童の必要性から創られ、興味や関心、希望や特性が生かされる活動で文化的、創造的な活動。	お楽しみ係 新聞係 読み聞かせ係…等。

＜係活動をとおして育てたい態度・能力＞

☆　責任を持って役割を果たし、協力して活動する豊かな社会性。
☆　よりよくしようとする意欲を持ち、自分たちのアイデアで創意工夫していく力。
☆　学級生活を楽しくするために進んで働き、自己を生かす力。
☆　自他のよさを発見、理解し、一人一人のよさや可能性を自ら伸ばす力。

３ 係活動の手順および留意点

係活動（当番と係）は、学級がスタートした始業式後、できるだけ早い段階で創り上げたい。よりよい学級経営を行っていく上で係活動の充実は欠かせないからである。

しかし、一般的に低学年と中学年・高学年では係活動のシステム自体に違いがある場合が多い。低学年では、仕事が分かりやすい当番を中心に、中高学年では様々な工夫を取り入れた係をイメージするとよい。

そこで、係活動を子どもたちとの話合いの中で創り上げることをイメージして以下のような手順をふみたい。

（１）係活動の開始までにしておくこと

① 子どもたちの実態（よさと課題）を把握する。

② 学級経営の方向性をもとに係活動のアイデアを担任自身が持ち、子どもたちに投げかける。

③ アイデアとして出された係活動の中からどの当番や係を担当したいか、事前に考えさせる。（宿題、アンケート等）

④ 活動時間の確保の確認。（学級活動の時間、休憩時間、放課後等）

⑤ 学級活動の年間計画の作成。…係活動の題材として意図的、計画的に時間を確保し、活動の継続と充実・向上を図る。

（２）係活動編成時の工夫

① 係活動のオリエンテーション

〇係活動が活発になるとどれほど学級がよくなるかを語る。

〇係と当番の違いを説明する。

〇みんなのアイデア、興味、特技を生かしていく係の内容を説明する。

② 係の内容とネーミング

☆ 係の内容とネーミング例

ネーミング	内容
テスト作成係	国語や算数のミニテストを作る。勉強カルタ、漢字ビンゴ、〇×クイズ、新聞を使った（漢字さがし、地名さがし等）クイズを作る。
キラキラ係	ロッカー、天井、入り口など季節にあった飾りつけをする。教室を一つのテーマパークのようにする。
ギネス係	誰が一番長くまばたきしないでいられるか、一分間で何回出来るか（なわとび、ドリブル、拍手）等、様々な大会を行い、ギネス大会を行う。
エコ係	環境問題について考え活動する。エコ新聞等を発行しみんなに環境について関心を持ってもらう。
パフォーマンス係	カラオケ大会、ダンス大会、ゲーム集会等、学級全員が参加できる様々な企画を考え、楽しませる。
幸せレスキュー隊	学級の中で安心、安全に生活できるように考え活動する。怪我をした時や調子の悪い友達がいたら保健室に付きそう。健康ポスターを作る。

コント・ギャグ係	友だちを笑わせるようなおもしろいことをする。漫才やコント、ギャグを考えみんなに発表する。４コマ漫画を描いて発表する。
お悩み解決係	友達の悩みを聞いて、なんとか解決してあげようという係。
雑貨会社	家にある刺繍糸などを持ってきてミサンガを作る。友達から使わなくなった文房具などを寄付してもらいデコレーションして再利用する。
新聞係	腕章をして報道機関として活躍。デジカメを持たせスクープ写真等を撮り、新聞を作る。
生け花係	生け花で教室を潤す係。茶道体験にも繋がる。

その他にも…

（遊び係、掲示係、表彰係、かざり会社、コミック会社、誕生日イベント、くじ係、景品係マンガ係、研究係、工作係、みんなのお笑い会社等。）

③　所属、人数

・　複数の所属の希望は原則として認める。
・　係の人数は制限せず、なりたい係をする。（例：３人以上集まれば係として成立）
・　自分がクラスのためにできることを自分で選んで行う。→自分たちで考えた活動を主体的に責任を持って行う。
・　人数が多くなった場合、２つに分けて、双方の特色を出した活動にする。
・　男女が一緒の構成メンバーにし協力できるもの。
・　当番（一人一役）と係に分ける。

④　掲示物作成

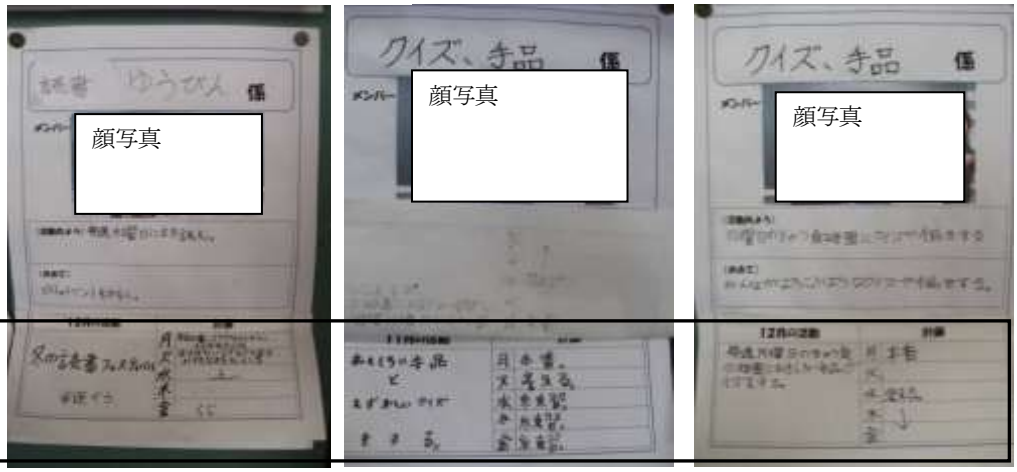
４　係活動のアイデア事例

係活動カードの掲示

①　活動内容、役割分担を明確にし、月の予定や週の予定を立てさせた活動計画表を作成し、掲示する。（いつ、だれが、どの時間帯に、何をする、工夫すること等を記入する欄を設ける。）

②　看板を作成（会社名、メンバー、活動内容や日時、意気込み等）する。

～掲示物参考例～



月ごとの活動や計画を記入する。毎月貼っていく。

～活動計画表の参考例～　　11月活動計画　→　12月活動計画

決まった形式ではなく、画用紙に自由な発想で、係に合った掲示物を作成した例。

活動内容や日時、意気込みを記入。

活動時間の確保

① 朝の会や放課後だけでなく、学級活動の時間の中で定期的に活動時間として設ける。
② 活動時間を確保する。全員で活動できる時間、仕事をする時間を明確にする。
（例…朝の会の前、給食当番移動中、そうじ終了５分間等）
③ 係活動ごとに集まり、１５～２５分程度の活動の時間を作る。（週に１回は必ず）
④ 係活動ごとに給食を食べる。
⑤ 活動時間の工夫をする。
（クイズ、手品係…パン給食の時間、読み聞かせ係…朝読書の時間）

活動の場の工夫

① 教室内に、係活動コーナーを設置する。（画用紙、色ペンなどはいつでも使える環境を整える。）
② 係活動からのお知らせやイベント案内、お願いを掲示するコーナーを設置する。
③ 広告裏の白紙を活用する。
④ 企画書掲示コーナーを作る。
⑤ 係活動の個人カードを作る。

～係活動コーナー～

日々の活動における工夫（働きかけ）

① 活動計画（活動方針）を作る。
② 他の学年、学級ではどんな係活動をしているのか情報収集させる。
③ 係活動の良いこと見つけを行う。
④ 係活動の発表会を行う。
⑤ がんばっている様子を学級通信等で紹介する。
⑥ 週に１度は報告日を設ける。

～特ダネ係による「意見発表会」～

〈活動計画例〉

私たちが歌声係になったら、次のようにやります。
１　教える歌は「〇〇〇」です。～～～という歌い方をします。
２　帰りの会で教えます。
３　歌声大会をします。
・賞・・・優勝した班には大きな賞状を渡します。

評価の仕方…評価の工夫しだいで、活動が活発化する。

① シールを活用。

・　特別な活動（月掲示を作った。お楽しみ会を行った。新聞を作った。学級会を進行した。学習クイズを作った。一週間金魚の世話をした等）をするごとに、帰りの会で評価をしてもらい、評価表にシールを貼る。（例：◎…金シール、○…青シール、△…赤シール）
・　ミニカレンダーを各係のカードの下に貼り、活動した後にシールを貼る。
・　３０マスくらいのマス目を用意し、活動した係はシールを貼る。

～シールを使って活動チェック～

② 活動の報告。

・　点検したことの結果を朝の会や帰りの会で報告。友達のよかったところを発表して活動の意欲につなげる。

③ ネームプレートの活用。

・　活動の振り返りで毎日積極的な活動をしたら、ネームプレートを裏返す。

（例）

くばり　かかり
鳥取　太郎

裏返すと

くばり　かかり
終わりました
鳥取　太郎

裏返すと

裏には、「終わりました。」と書いてある。

④ 自己評価を行う。

・　学期末には係ごとに自己評価（活動やイベントのふり返り）をする。友達からの感想や意見を付箋紙に貼ってもらう。

⑤ 他者からの評価を取り入れる。

・　係活動が独りよがりやマンネリにならないよう数分間のミーティング→プレゼン→係ごとに自分たちのがんばりをアピール→聞いている友だちに発表した係のがんばりを認めるか認めないか判断、挙手。→挙手の数÷（クラスの人数－係の人数）の百分率を計算→%が低いグループは、友だちから活動への提案や不満点を指摘させ、指摘された点について回答し次回の活動に生かす等。

やる気を持たせる１０の工夫

① 係からクラスへの連絡。

・　朝の会、帰りの会で、週に１回は必ず行うようにする。クラスのみんなにお願いしたいこと、知っておいてほしいこと等。何も連絡することがなくても、今、どんな仕事をしているか伝えることを指導する。
例…「○○を持ってきてください。」「○係で○○しています。」

② 係活動ノートを作る。（例…活動の足跡を残すギネスブック）

・　係活動ノートに話し合った内容を記録させる。自分たち以外の係活動がどんな話し合いをしたのかをいつでも見ることができるように、ロッカーに並べておく。係の活動内容を蓄積し、ノートに作り、ファイルに記録する。

③ 係活動の体験交流。

・　１週間の期間、係活動同士で半数の人員交流を行い、他の係活動をしながら「もっとこうしたらいい。」「ここは自分の係に取り入れよう。」等、刺激し合う。

④ 特権を持たせる。

・　係のコーナーしかできないこと、係しか使えないコーナーなどちょっとした特権を持たせる。

⑤ イベントを行う。

・　決めた活動の他に学期中に最低１回は、クラス全員対象としたイベントを企画する。全ての係がイベントを行ったら達成お祝いパーティーを開く。担任主催のイベント（バケツプリン、ホットケーキタワー等）も行う。また、学期に一度くらい、いくつかの係同士で協力して大きなレクを考える。（例）５年生ミニミニ運動会。

⑥ どや顔の掲示物。

・　どや顔の写真付きを掲示し、だれが仕事をしているのか責任の所在や回りからの視線を意識させる。

⑦ 「会社活動」という名称に。

・　係ではなく、「会社」という名称にする。係活動は会社と同じ。活動をしないと、「倒産」してしまう。リーダーは社長。

⑧ ありがとうカード。

・　係活動ありがとうカードを送る。「○係さん、○○してくれてありがとう。」という感謝の気持ちをカードに書き込み、壁にコーナーを作る。

⑨ 児童のがんばりを形で。

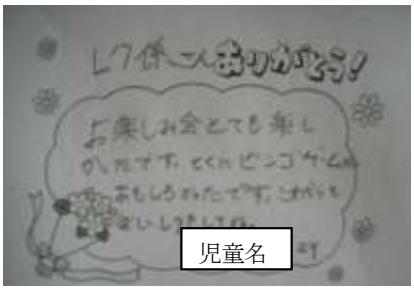
・　児童のがんばりに応じて株券（学級でのがんばりを認めるもの）を与える。

⑩ 次の学期に向けて。

・　次の学期はどんな係があったらよいか希望を出し合う。（アンケート）

～ギネスブック～

～ハロウィンパーティー～



～○○係さん、ありがとうカード～

５ 活用上の留意点

○ 本当に係が必要なのか、係として活動できるのか**吟味**してから臨むこと。

○ 活動の**定期点検**を随時行う。（子どもたちの思い通りに１～２ヶ月活動させる。その後さらに係が活性化するために活動内容を再検討させ新しい掲示を作り直す。）

○ **目安箱**のようなものを設置する。（みんなの意見を出し合うコーナー）

○ それぞれの当番の仕事が自分たちで出来るようになった頃、**工夫した活動が付け加えられる**ようにグループで話し合う。（特に１年生）

○ 高学年は、学校全体の仕事を担っていくこととの兼ね合いがあり、時間的に学級での係の活動時間が取りにくい。低学年は学校生活に慣れることが優先で、何でもやる気いっぱいに活動するのであまり細かく、当番、係を分ける必要はない。**中学年で鍛えて**いると高学年でも活動を進めやすい。

本係による「読み聞かせ」

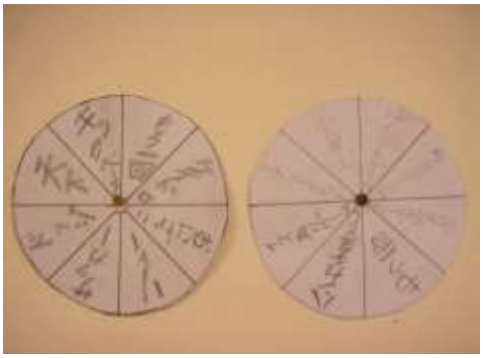
遊び係による「学級全員遊び」

盛り上げ係による「応援歌斉唱」

～係活動の様子～

自主的に行う活動については、係のコーナーを作り自由に使えるようにしておく。

～係からのお知らせコーナー～



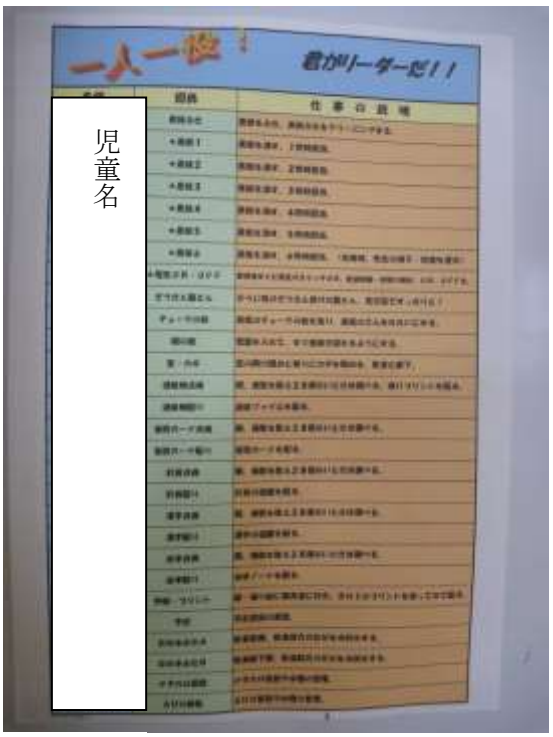
～遊び係の、「遊びダーツ」～

～意見を出し合うポスト～

一人一役は、表をつくり責任を明確にさせる。
誰が見ても分かるように常に掲示しておく。

一人一仕事

児童名	仕事内容
	テレビON，OFF
	教科書チェック
	今月の詩・リード
	歯みがきコップ、チェック
	給食ワゴン・準備、移動
	落とし物
	ノートそろえ
	プリントそろえ
	生活目標チェック
	本のせいとん・よびかけ
	給食タイマー
	くつそろえ
	名札、チェック
	給食おかず残し、声かけ
	黒板消しサン・粉
	手紙取り
	電気、ON，OFF
	班カード出し・チェック
	ハンカチ、チェック
	パワーアップタイム・準備・声かけ
	ぞうきんそろえ
	白衣、出す、最終チェック
	歯みがきすわり、チェック
	まど、ドア
	机・整とん
	教科準備
	給食タイマー
	ロッカー・整とん



～一人一仕事、仕事分担表～

～学級の係掲示コーナー～

清掃活動のアイデア

1　清掃活動の意義

これまで一度も示されてこなかった「清掃」の文言が、新学習指導要領で初めて明記された。

〔第５学年及び第６学年〕〔共通事項〕

(2)日常の生活や学習への適応及び健康安全

エ「**清掃**などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解」

「清掃」の教育的意義をとらえ直し、子どもの実態をふまえた上でどのように指導し、どのように伸ばしていくのか、今後の実践が求められている。

清掃活動の意義は、およそ次のように考えられる。

（１）身の回りの環境整理について、いつも清潔な状態を保とうとする態度を育成する。
（２）みんなで使う場所を大切にすることで、公共心を養う。
（３）みんなで清潔にしていくことで、集団生活を意識し、協調性を育成する。
（４）働くことの意義の理解を促す。

つまり清掃活動は、清掃活動をとおして「美しい場所には美しい心がある」という意識を高め、人間形成に役立てていく活動なのである。

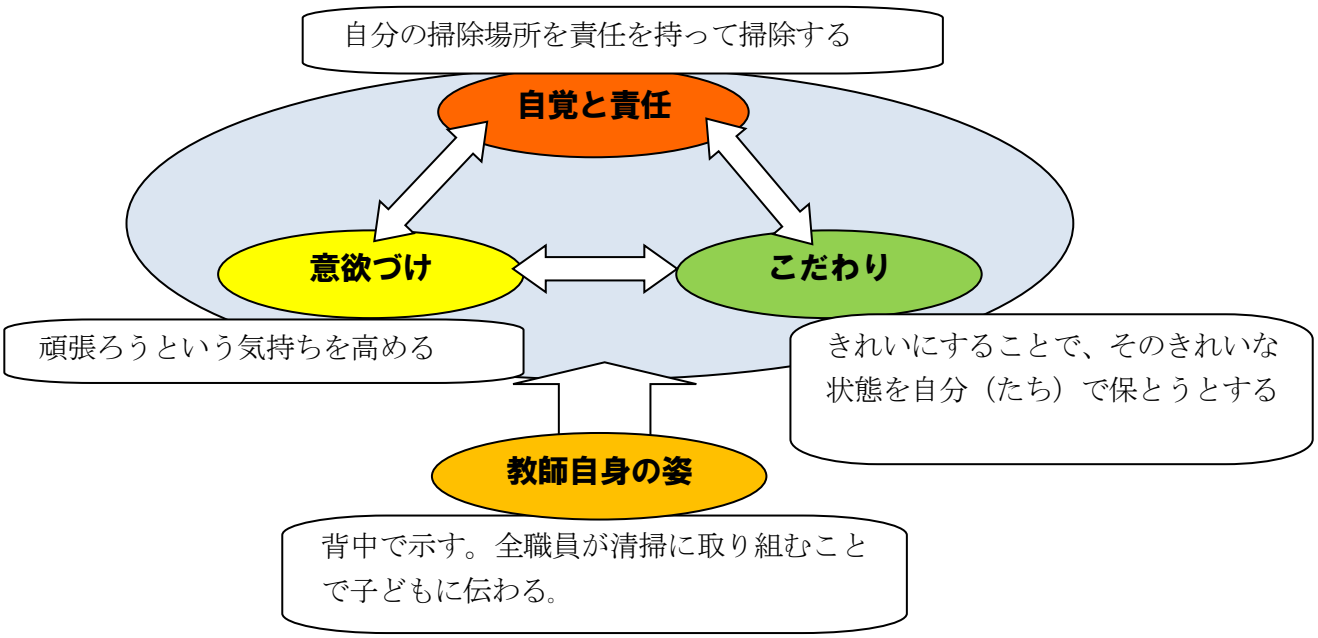
２　清掃指導への働きかけ

清掃指導は、指導が子どもに入りにくいという困難さがある。子どもたちの「たいぎい」「めんどうくさい」「きたない」などのマイナス意識が高い壁になるからである。「清掃指導と給食指導が出来れば、学級経営は半分出来たようなもの」と言われることも、清掃指導の難しさを表している。

こうしたマイナス意識を乗り越え、清掃活動に向かわせるための働きかけとして、

「やらされる掃除」から「する掃除」

への意識を変えさせる工夫が大切である。



（図解説）

清掃活動への意欲を高めることで、「ここは自分がきれいにするんだ」という自覚と責任が生まれ、こだわりをもって取り組むことになる。子どもたちのその意識を支えるのは教師の姿であって、日常的な生活行動の一つではあっても、黙々と取り組むその姿を見せること、そして、子どもたちの取り組みを認めて意欲づけを行うことが「する掃除」への意識を高めることになる。

２「する掃除」のアイデア

＜意欲づけに関わる工夫＞

☆掃除マスターレベル表の活用（下：マスターレベル表一例）

名人―達人―スペシャリストなどの“レベル”を示し、掃除後に自己評価をし、ボードに示してあるレベルに名前入り磁石をはり、その磁石を随時動かせるようにしておく。

マスターレベル表（例）

そうじ道具を　正しく使い、きちんと後かたづけができる。	レベル５達人
時間いっぱいそうじをする。	レベル４名人
だまってそうじをする。	レベル３
よごれやごみが残らないようにそうじをする。	レベル２
そうじが始まるまでにそうじ場所に行く。	レベル１

☆そうじ免許（右：そうじ免許一例）

そうじの意義を考えさせるために作成。２級、１級、特級とあげていく。子どもの興味は高まり、意欲も高められる。

・美化委員会など、委員会活動としてこのカードを作り、全校表彰を行う。
・ゴールド免許発行。いつでもどこでも見本となるような掃除をするクラスや個人に渡す。

☆ぞうきんの形状の工夫

使いやすさとその形状に工夫を加えた雑巾を家庭科の時間などを利用して自分たちで作成する。

・おたまじゃくしぞうきんの作成（京都教育大附属桃山小・作成・使用例参照）（右：おたまじゃくしぞうきん一例）

＜「自覚」と「責任」に関わる工夫＞

□「ここは私が掃除しています！」の顔写真入り表示（下：カード一例）

掃除担当児童の名前や顔写真付き名札をその掃除場所に掲げておく。こだわりと責任を持たせられるし、担任以外の教員がその子に誉めることにもつながる。

カード一例

５－１

鳥取　太郎

□役割分担の明確化（下：分担表一例）

誰が何をするのかをはっきりさせておく。子ども個々への声かけも明確になる。

分担表一例

教室掃除	
黒板	Ａさん　Ｂさん
ほうき	Ｃさん　Ｄさん
ロッカー整とん	Ｅさん
ぞうきんがけ	ＦさんＧさんＨさんＩさん

□当番はある期間固定化させる

短いサイクルで担当場所をかえるのではなく、ある一定期間同じ場所を掃除するようにする。少なくとも２週間は固定化させたい。

□縦割り班・きょうだい学年を活用したそうじ（下：具体例）

たてわり班で掃除を行う。上級生の姿が模範となり、黙々と掃除するその姿が伝統的に引き継いでいける。

・月に一回、担当場所を決めて行う。（校舎内外）
・クリーンクリーン活動などの奉仕活動などもたてわり班で行う。
・運動会前のグラウンド整備（石拾い、草取りなど）を、場所を分担して行う。
・プール掃除をきょうだい学年で行う。

＜「こだわり」に関わる工夫＞

◇「無言」そうじ（BGM もなし）

黙って掃除を行うことで集中して作業に取り組める。基本的には“しゃべらない”が原則である。

・年度当初から全校で一斉に取り組む。
・委員会の呼びかけと関連させ、実際の様子をビデオにとって放映すると意欲づけになる。

◇そうじ後の振り返り

自己反省、自己評価をもとに行う。

掃除振り返り（例）

ろうか掃除の振り返り	月	火	水	木	金
すみにほこりがないぞ！	◎				
ストローの袋は落ちていないぞ！	◎				
ぞうきんで全面ふいた！！	◎				
掃除道具は全部片付けた！	◎				

４ 活用に向けて

全職員の共通理解

掃除時間は全員で取り組む。指導も必要だが、教師が背中で示すことも大事。

・級外の先生の掃除担当場所を決める。
・担任もローテーションして、掃除場所を変わってみる。

効果的な評価

子どもたちの取り組み、頑張りをみつけ、声かけしていくことが意欲づけにつながる。

声かけ（例）

・いつもありがとう。きもちがいいよ。
・ぞうきんが真っ黒になった分、心はぴかぴかになってるよ。
・ここはあなたに任せていたら安心だ。いつもきれいだ。
・さすが！じょうずに掃除ができているね。
・十分すぎるくらいきれいになっているよ。
・低学年のみんなにもみせてあげたいくらい丁寧にそうじしているね。など

自ら掃除して、きれいな場所にしていく、きれいにすれば心もきれいになる、気持ちがよい！　このことを実感させたい。年度当初各学年の掃除分担が決まり次第、「そうじだいすき」のような合い言葉をもとにした取り組みや支援を行うことが大切である。

学校の規模やクラスの人数によって実践しやすいものとそうでないものとがある。「この実践は効果的だ」と判断したものを活用していきたい。

給食指導のアイデア

1　給食指導の意義

給食時間は、授業以外では休憩時間と並び、子どもたちが最も楽しみにしている時間である。それだけに、子どもたちの素の状態が最もよく現れる。「食べる」ことは「楽しさ」であると同時に、「生きる」という本能そのものだからである。当然指導の手は、年度当初からしっかり入れなければならない。それを怠ると、本能が優位に働き、あっという間に学級が崩れていく。しかもそのスピードは速い。つまり、

給食指導は、学級経営に直結している

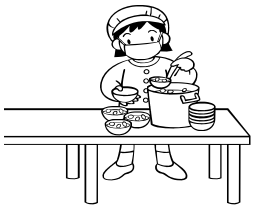
のである。

そこで、年度当初から給食指導を学級経営のバロメーターとして位置づけ、丁寧に指導していくと、「準備・後片付けが手際よい」「食事のマナーがよい」「毎日ほぼ完食する」などの状況が見られるようになる。そうなると、「授業や行事の準備・後片付けが手際よい」「生活上のマナーがよい」だけでなく、「安定した生活態度が見られ、欠席が少ない」「様々な面で規範意識が高い」など、学級集団としての高まりにもつながっていく。給食指導の波及効果が高い所以である。

2　ルールづくり

給食時間に関するルールは、教師からの指導が中心になるため、細かい部分まで、学年で共通理解しておく必要がある。

以下のルールは、年間をとおして継続していくため、最初の給食時間から、徹底するように指導する。ただし、当初から「できたことをほめる」スタンスで、自主的な姿を見つけて、どんどんほめるようにしなくては短期間での徹底は難しい。



＜給食当番のルール＞

◇　給食当番は一人一役。１週間交代が一般的。
◇　授業終了後、すぐに白衣に着替えて並ぶ。
◇　２人ペアで声をかけ合う。
◇　タイムキーパー係をつくり、準備にかかった時間を合計して週初めに公表・掲示をする。

＜配膳時のルール＞

□　配膳は給食当番がセルフ形式（給食を配膳台に並べ、順々にとる形式）で行う。
□　全員に同じ量を配るのが基本。「好き嫌い」「量の多少」は受け付けない。ただし、体調の悪さやアレルギー等の場合は配る量も変わる。
□　担任の配膳→給食当番の配膳→自分の配膳　の順に配膳を行う。

＜調整のルール＞

○　配膳の後、直ぐに「ごちそうさまをするまでに、食べきれないものがある人は戻しにおいで。」と担任が全体に声をかけ、担任が量を調節する。

○　次いで「もう少し食べれそうだと思う人はおいで。」と声をかけ、担任が量を調節する。

＜おかわりのルール＞

◇　おかわりは担任が仕切る。

◇　欠席などで余っている物（パン、牛乳、デザートなど）を教師が希望者に配布する。

◇　希望者多数の場合は、ジャンケンで決める。

＜残すときのルール＞

□　残すときは、教師に「残します。」と言うようにさせる。

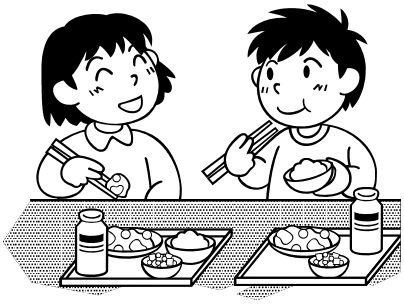
□　担任は、「どれぐらい食べた？」と聞き、以前よりがんばった様子がある場合にしっかりほめる。

＜返却時のルール＞

○　食べ終わった子どもから食器を返す。

○　音がしないように食器やバットを返す。

○　返したら、席について読書、係活動の作業、係活動の話合いをする。



３　給食指導のアイデア

＜1年生のはじめの指導＞

・　給食指導の冊子「たのしいきゅうしょく」を活用する。

・　兄弟学年、６年生が教える。片づけ方を教えに来て、昼休憩もいっしょに過ごす。

・　最初の週は、２年生が１年生１人に１人ずつついてやり方を教える。次の週は前週に当番だった児童が新しい当番に教える。

＜箸の持ち方＞

①　まず、箸を１本鉛筆のように持つ。（これが上にくる箸）
②　持った箸を上下に動かす練習をする。（親指、人差し指、中指で）
③　もう１本の箸を下に差し込む。
④　上の箸だけを動かす。（この時、箸の先が合うように）

＜「いただきます」「ごちそうさま」を教える＞

どの学年でも、「いただきます」「ごちそうさま」の意味は、年度初めに教えておきたい。意味が理解できるようになると、マナーも変わってくる。

“いただきます ”

私たちは、自分の命を生かすために、動物や植物の命をもらわなければ生きていけません。これは私たち人間だけでなく、他の動物も同じです。もちろん植物も他の動植物の死骸や落ち葉を養分として採り入れています。命があるものはすべて、他の命をもらわなければ生きていけないのです。つまり「自分だけで生きている」のではなく、「他の命によって生かされている」ことになります。

自分を生かしてくれている他の命に「ありがとう」の意味を込め、そして、「自分のために死んでくれた命の分も生きよう」という気持ちも込めて、そっと手のひらを合わせて「いただきます。」を言いましょう。

“ごちそうさま ”

「ごちそうさま」は、漢字で書くと「ご馳走様」です。「馳」も「走」も「はしる」と言う意味の漢字です。なぜ「はしる」意味の漢字が使われているのでしょう？

それは、「昔はお客様をもてなすときは、方々走り回って動物や作物をとってきて精一杯の気持ちで料理をつくり、もてなしていた。」からです。そんな命がけの働きに、お客様が「ありがとう」と心からの感謝の気持ちを表した言葉が「ごちそうさま」です。

さっきまで目の前にあった料理は、調理された皆さんだけでなく、食材や調味料を準備するために、大勢の方々が大変な思いをして用意してくださっています。そして、いただいたたくさんの命にも感謝の気持ちをこめて、「ごちそうさま」を言いましょう。

食事前後のこの２つのあいさつは、外国にはない、日本独特の食文化の一つである。豊かで便利な飽食の時代だからこそ、この２つのあいさつを通して「食べ物を大切に思う心」を育てる必要がある。

＜誕生日給食＞

- 学級の子どもの誕生日には「誕生日会食」を企画する。
- 誕生日の人が車座で主役席に座る。
- 誕生日係の音頭により牛乳で乾杯をしてから開始する。
- 該当児童の食べ物の好き嫌いや食べ物にまつわるエピソードを紹介する。

＜遠足給食＞

- 汁の少ないおかずの日をねらって、外で給食を食べる。
- 前もってタッパーを持参させ（便りで案内しておく）、おかずを詰めて持ち出す。
- あまり遠くまでは行けないことや、事前に校内での了解を得ておく必要がある。
- 春に桜の木の下で「お花見給食」をしたり、屋上や多目的ホールなどで食べるという工夫もできる。

＜レストラン給食＞

- テーブルクロスをかけ、花瓶に花を飾って雰囲気をつくる。
- 入口に「レストラン〇〇」などの看板を掲げる。
- 落ち着いた曲をリクエストし、ＢＧＭとして流す。
- ウエイター役の子どもが「いらっしゃいませ」と言って教室の外に待っている他の子を迎え、指定の場所に案内する。
- ウエイター役の子どもは、蝶ネクタイを自作し、カッターを着るとさらにフォーマルな雰囲気になる。
- 食事のマナーをあらかじめ指導（箸の持ち方・置き方、食事中のおしゃべり等）しておくと、雰囲気でマナーが身に付きやすくなる。

＜縦割りグループ給食＞

- 各学級で配膳した給食を各自で運び、縦割りグループで集まって食べる。
- 縦割り活動で行う競技（リレー、縄跳びなど）の作戦を立てる時間に利用する。
- 縦割り活動のまとめとして「互いをたたえる会」として行う。

４　留意すること

○　給食指導の3原則:「効率」「公平」「楽しさ」

効率　…　準備や後かたづけは、手際よさが必要。ムダのない動きをくり返し指導し、その気持ちよさや楽しさを体感させる。コツは**「いかにほめるか」**である。

公平　…　「食べること」は「生きること」なので、常に「公平」な指導が必要。「なぜ先生がおかわりを仕切るのか」「なぜ様々なルールがあるか」など、くり返し説明する。コツは**「指導する時は全体に」**である。

楽しさ　…　食べる行為の楽しさは知っていても、みんなで食べることの楽しさは案外知らない。準備や後片付けも含め、**「目と舌と心で得られる満腹感」**を合言葉に、給食時間が楽しいと思える工夫をたくさん仕掛けたい。

○　完食指導はほどほどに

完食指導は必要な指導ではあるが、学級の到達目標にはなりにくい。全員完食を目指すより、**「好き嫌いなく食べる取り組み」**をあれこれ工夫した方がよい。工夫の積み重ねが、結果として完食につながる。

○　処理にこだわる

残した牛乳やパンの処理、デザートのカップやスプーンの分別について、どの様に指示がしてあるだろう。もし、子どもたちに任せきりだと危ない。普段残さない子どもが牛乳やパンを残すにはそれ相当の理由があり、しかもこれまでに自分で処理をしたことがないならば、確認の意味で声をかける必要がある。また、デザートのカップやスプーンの分別について、**全体に向けて指示**をしておかなければ、分別をいい加減にしてしまうことも出てくる。普段とは違う状況の時こそ目を配り、**細かいことでも丁寧な処理にこだわる給食指導が、**よりよい学級経営につながっていくのである。

リーダー育成のアイデア

1 リーダー育成の意義

小学校では、高学年になると学級だけでなく、学校全体の中心となって活動する場面が多く出てくる。委員会、クラブ活動、代表委員会、登校班、また、様々な学校行事など。そのような活動の中でリーダーとなって、話し合いの司会を行ったり、集団をまとめたり、下級生のお手本となったり、学校によき伝統を作ったりしていくことが求められる。また、高学年に限らず、学級内の生活･学習班の班長、様々な活動グループの班長等、リーダーを体験する機会はどの学年でもある。

このようなリーダーとしての体験が、これから先の学校生活や社会に出てからの集団生活に生かされていくことを考えると、「リーダーをどのように育成していくか」ということは、学校教育の大切な柱となってくる。

小学校時代におけるリーダーの役割は、以下のように考えられる。

①集団の意見をまとめ、活動の牽引役やまとめ役
②下級生及び同級生のよきモデル
③社会の仕組みを学ぶ場（リーダーとしての責任を自覚する場）
④リーダーをみんなで支えるという支える側（フォロアー）の学習の場

特に、小学生年代では「**場面リーダー**」の経験を可能な限り多くさせる必要があり、リーダーとして皆の前に立つ（公の場の）経験をすることで、隠れた能力が引き出せたり、自覚させたり、自信をつけさせたりできる。また、「場面リーダー」を数多く経験させることは、支える側（フォロアー）の**見る目を養う訓練**にもつながることを意識したい。

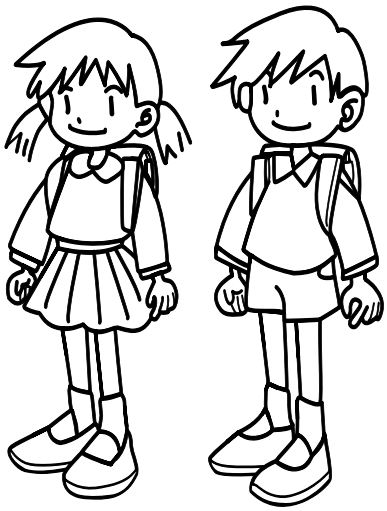
2 リーダー育成の留意点

①「先生のお手伝い係」ではない。

児童の立場に立ち、「苦労もあったけど、やってよかった」等、やり甲斐を感じさせたい。

②多くを求めすぎない。

負担をかけすぎると、リーダーが孤立してしまったり、自信を失ってしまったり、また、誰もリーダーになりたくない雰囲気が学級に生まれたり等、様々な問題が出てくることがある。十分に気をつけたい。



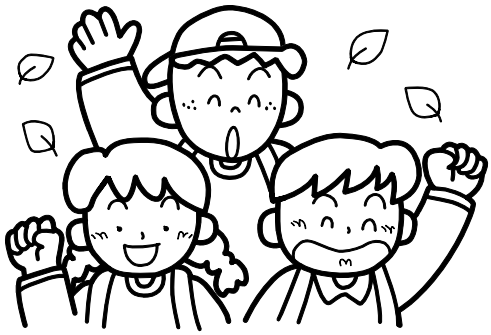
③苦労を目一杯ほめる。

まとめるためにした苦労が、いかに意味があったかを全体に話し、目一杯ほめることで、次のリーダー経験の意欲づけにする。

④全体像を優先して知らせる。

リーダーに求められるのは､うまく仕事をこなすことではない。全体像を知り、流れをつかみ、力を入れるポイントや気をつけることを他の子ども達に知らせることである。

（１）リーダーの決め方



①立候補

やる気を大切にする決め方である。リーダーをしたいという意欲がある児童が行うのでそのやる気を大事にして務めさせていきたい。

立候補を募る場合、

ある程度考える時間を与える

必要がある。不安を抱えていて立候補しようかどうしようか迷っていたり、踏ん切りがつかなかったりする児童もおり、心の準備を持たせる言葉かけ（リーダーの必要性や励まし、不安に対する対応）や考える時間を与えてやりたい。それをしないと、候補者があまり深く考えない児童のみになったり、誰も立候補しなかったりといった事態も考えられる。

②友達からの推薦

できるだけみんなから信頼されている児童にリーダーをさせたい場合に行う方法。ただ、推薦された本人がやる気になるよう、

前もって全体に話をしておいたり、決まった後の了解を取ったりする

など配慮が必要である。無理やりさせることのないように気をつけたい。また、どのような人にリーダーになってほしいのか、なかよしだからといった理由やふざけて推薦する方向に行かないよう、事前の話をしっかりしておく必要がある。

③先生からの推薦

教師側に教育的意図があり、この場面でこの児童にリーダーをさせたいという場合、教師からの推薦という方法もある。この場合、しっかりと

教育的意図への理解を本人と仲間に伝え、納得を得る

ことが重要である。

（２）フォロアーへの配慮

リーダー育成において、リーダーへの指導以上に大切なのが、フォロアー（リーダー以外）の児童への指導である。リーダー以外の児童が多数であり、意見やアイデアを出したり、実際に行動したりするのは自分たちであり、あくまでリーダーは代表であり、まとめ役であることを確認したい。そして、フォロアーの心得として次の点について全員に話す機会を設けるとよい。

- まわりの人がリーダーを大切にして支えること。
- 進んで協力し、何でもリーダーにまかせ過ぎない。
- うまくいかなくてもリーダーだけの責任にしない。

教師は**リーダーを孤立させない**ように最大限注意を払う必要がある。そのために、定期的に、話を聞いて相談にのるような**リーダー会**などの会を持って自覚を高めていきたい。また逆に、威圧的なリーダーによって一部の児童が嫌な思いをすることがないよう配慮することも怠らないようにする。

特に小さな集団である班などの場合、リーダーと性格が合わない児童とリーダーとでトラブルを起こし、そのまま放置され、いじめに発展するなど、その後の人間関係に大きく影響を与える場合もあり、教師は全てリーダーに任せっぱなしといったことにせず、様々な手立てを考えていきたい。

3 リーダー育成のアイデア

ここでは、リーダー育成にあたって、実際に様々な学校で行われている実践やアイデアを紹介する。全体的に運営上のリーダー＝高学年のケースが多いため、高学年のリーダー意識を高めるアイデアが多い。

アイデア１　クラスでできるリーダー育成

・話し合い活動を多く取り入れ、司会・記録・時間係などの**役割を輪番で行い**、誰でも話し合いをリードする経験をさせる。

・学級レクタイムを作り、クラスの児童は交代でゲームリーダーとなって、その日のゲームの準備・説明・指示・進行を担当する。

・協力がうまくいっている班には、みんなでチームワーク賞を選び、表彰する。

・班活動で学習リーダー、運動リーダー、給食リーダー、生活リーダーなどメンバー全員に何らかのリーダーの役をさせる。各リーダーで活動内容を話し合い、随時リーダー会を開き、活動の報告会を行う。

・生活班の利用…①班長会で学級内の出来事の情報交換や学級内イベントの企画、問題の解決に向けて話し合いを行う。②生活班単位で日直の活動（朝の会･帰りの会進行、黒板、授業のあいさつなど）を行う。

・係活動において…**学級リーダー係**をつくり、学級の話し合いや集団行動の中心となる仕事を任せ、リーダーとしての意識を高める。

宿泊学習や修学旅行の時、班とリーダーを数週間前に決め、その班で修学旅行まで学校生活を送らせる。班長としての自覚を高めると共に、班のチームワークを高める。

・**仲間集めゲーム**…５色くらいのシールを用意して子どもたちの背中に貼っていく。子どもたちはしゃべらずに、同じ色のグループを作るというゲーム。自分の色が分からないので、同じ色同士をくっつける児童が出てくる。児童の動きを見ていると、リーダー性が分かってくる。

・クラスのリーダーや副リーダーのシステムを作り、協力しようとする気持ちやまとめる力を養うようにする。

アイデア２　**次期学校リーダーとなる５年生の取り組み**

・６年生を送る会に向け、**５年生を中心とした縦割り班ごとに準備**（寄せ書き・輪飾りつくり）をさせることで次のリーダーを育成する場とする。

・５年生が卒業式準備・片付け等するとき、意欲的に取り組ませるよう事前の指導をしっかりする。決められた時間内に作業させ、終えたことに対する充実感を持たせ、次期リーダーへの意識を高める。

・５年の３月に児童の推薦投票による６年のリーダー選考を行い、各代表を早い時期に決定し、６年生の４月からすぐに活動できるようにする。５年の担任が責任を持って６年でのリーダーを決めることで、新６年の担任が児童の実態が分からず、リーダー決めに苦慮するといったことにならないようにするため。

アイデア３　**縦割り班活動でのリーダー育成**

・縦割り班活動の中で、春の遠足などを利用し、リーダー性を発揮できる場をつくる。他学年の前では、リーダーとして活動させる際、**失敗させない**。多少うまくいかなくても６年生をしからない。助言するにしても、みんなの前でなく、６年生だけにそっと声をかける。失敗が少ないように手立てを取っておき、リーダーの自信を高める。

・より多くの経験をつませるために、色別縦割り班の班長を６年生、副班長を５年生にさせる。また、班長とは別に、色別リーダーを６年生から決める。

・縦割り班活動の時間を毎月１単位時間設定し、ミニ集会的な活動を中心に行う。色別リーダーは６年生の学級代表がなり、代表委員会や各種実行委員会へ参加し、縦割り班活動の円滑な運営に当たる。班別リーダーは６年生の学年の話し合いよって決められ、縦割り班活動の計画・運営・実施にむけて中心となって活動する。

・運動会の応援合戦に向けての準備、当日までの練習の仕切り、本番の進行を任せることで､チームとして下級生をどうリードすれば､まとまりが出て盛り上がるかを考えさせる。

・縦割り班活動での運動会の応援で、班長以外の児童にも、振り付けや歌などそれぞれの担当のリーダー的な役割をさせ、自分の担当をリードしていこうと意識づける。

アイデア４　**最高学年としての自覚を促す**

・６年生の有志が学校行事（運動会、学習発表会）に合わせて５年生にメッセージを**自主的に伝える**機会を持つ。また、５年生有志がそれに答えてメッセージを返す。伝統的にこれを行うことで最高学年としての思いが引き継がれていき、高学年としての意識や行事にかける思いが高まる。

・学校行事、学年行事の場で、児童代表のあいさつをさせることで、事前に内容を考えたり、**アドリブでコメントを言ったり**できるようにし、代表としての意識を持たせる。

・水泳・陸上練習でリーダーを決め、準備・あいさつ、練習の進行をある程度自分達でさせる。

・委員長、縦割り班長、クラブ長を一人一役とし、6年生に長としての責任を自覚させる。

・6年生は1年生とのなかよしペアの活動（登校後の準備など）を通して、最高学年の自覚を高める。

・委員会の朝の活動を位置づけ、朝は、5・6年生は遊びの時間ではなく委員会活動をする時間という意識を持たせる。

・登校班で、うまく登校できないときにも、班長だけに負担をかけすぎない。（班長に全てをまかせ過ぎない）

アイデア５　児童会の組織作りを通して

・学級リーダー男女各1名（4年生以上）の選出。前・後期で交代。活動内容は、「①代表委員会への参加・決定事項をみんなへ伝える②学級会の司会③整列時、先頭で並ばせる④先生の連絡をみんなへ伝える」である。負担がかかりすぎないよう配慮する。

・児童会リーダー（6年会長、5年副会長）前、後期役員選挙。各クラスで運営委員に選出された児童が全校児童集会で立会演説会を行い、5年生以上の投票で決定。任命式の日に所信表明を行い、全校児童の承認を得る。

・児童会長・副会長の役割は、「①代表委員会の運営②行事での代表あいさつ③集会の企画運営④鳥取市児童代表話し合いへの参加」である。負担がかかりすぎないよう配慮する。

・委員会活動において…委員会決めの際、「委員長になって、学校全体に関わる働きをしたい」という意欲のある児童を募って、その中で委員会の委員長を決める。その後、残りの児童が所属委員会を決める。

4　活用に向けて

まず、何より共通理解しておきたいことは、「めざす子ども像」の確認である。「めざす子ども像」に向けて、教師だけでなく、**児童も参画させる営み**が「リーダー育成」なのである。まちがってもリーダー育成＝エリート育成ではないし、リーダー＝教師の下請けではないという認識をしっかり持ち、以下の点も考えながらクラスの実態と照らし合わせて、アイデア事例集を活用してほしい。

①　その活動に本当にリーダーが必要なのかどうか吟味してから臨む。

②　リーダー及び支える仲間の活動について適宜、評価（賞賛）しながら進めていく。

③　高学年だけでなく、中・低学年も、それぞれの段階に応じてリーダー像をイメージし、共通理解のもとに育成していく。

④　今後はもっと重要になる中学校との連携の上で、「求められるリーダー像」をイメージしておく。

縦割り活動のアイデア

1　縦割り活動の意義

かつては、学校でも家に帰ってからでも異年齢集団で遊ぶことは、どこにでもある日常的な風景だった。遊ぶことを通して、リーダーシップや思いやり、社会性、勇気、判断力、責任など、様々な態度や資質を関わりの中で学び合っていた。

このような異年齢集団は、少子化の影響も相まって日本中から一気に姿を消し、代わりに「自分に自信がもてず、将来や人間関係に不安を感じている子どもたち（2008 中教審答申）」が圧倒的に増えている。こうした現状をふまえ、この度の学習指導要領改訂において、〔児童会活動〕の内容に「異年齢集団による交流」が新たに追記されている。このことは、今こそ学校で異年齢集団活動にしっかり取り組むべきであり、学校の教育活動の中では特別活動こそが中心的に取り組む場であるということを示している。

こうした異年齢集団活動がもつ教育的意義としては、次のようなことがあげられる。

＜上学年にとって＞

①	リーダーシップの高まり（集団をまとめようとする責任感）
②	自己有用感の育成（下級生から憧れや頼られることで自分に自信をもつ）
③	学ぶ意欲の高まり（下級生をリードし見本となるように努力する）
④	思いやりの育成（年齢の差を考慮して様々な配慮をする）
⑤	問題解決力の育成（下級生の意見を聞き、話合いを通して解決していく）

＜下学年にとって＞

①	あこがれの育成（近くにいるよきモデル、めざす姿になる）
②	学ぶ意欲の高まり（上級生に迫ろうとして努力する）
③	フォロアーシップの育成（自分の役割を果たし、みんなで活動すると楽しい）

今後は、異年齢集団による児童会の自発的・自治的な活動の場や機会をより多く設定することにより、高学年の児童のリーダーシップを育て、学校集団としての活力を高め，楽しく豊かな学校生活をつくるようにすることが求められる。

2　縦割り活動のアイデア

（1）組織作り

①リーダー選び・班編成

・　３月末にリーダー（立候補やアピールタイム等で）を選ぶ。４月の始業式・入学式からスタートさせる。走力、兄弟関係を考慮する。

○リーダー育成の流れ

（ア）活動内容を事前に知らせ、リーダーとしての自覚を持たせる。

（イ）アンケートやインタビューをし、みんなの意見を把握する。

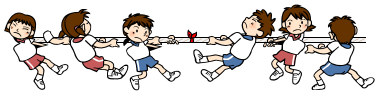
（ウ）活動のアイデアだけでなく、問題点も想定して対応を考えさせる。

（エ）活動ごとに振り返りをし、「何がよくて、どのように伸びているか」を具体的に話すことで、リーダとしての意識の高揚を図る。

②時間確保

・　毎月１回をなかよし活動の日として、年間予定に沿って運営を行う。
（学校の実態に応じて、各色に分かれて、年間を通して活動する）

・　学校行事とのタイアップ



学校行事　１年生を迎える会＋全校遠足
運動会、マラソン大会、６年生を送る会と活動を連動させる。

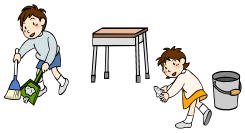
日　時		内　容	場　所
4月21日（木）⑥	顔合わせ	「サインでビンゴ」	各教室
5月19日（火）③		運動会応援練習	各教室
6月23日（木）⑥	ギネス練習	「ボール送りリレー」練習	各教室
7月14日（木）⑥	世紀っ子ギネス大会①	「ボール送りリレー」	体育館
9月15日（木）⑥	ミニ世紀っ子ギネス	「豆つまみ」	各教室

10月18日（火）⑥	ミニ世紀っ子ギネス	「上ぐつつみ」	各教室
11月22日（木）⑥	ギネス練習	「いなばのしろうさぎ」練習	各教室
12月6日（火）⑥	世紀っ子ギネス大会②	「いなばのしろうさぎ」	体育館
1月23日（月）⑥	ミニ世紀っ子ギネス	「てぬぐいでポン」	各教室
2月23日（木）⑥		メッセージカード作成	各教室
3月5日（月）⑥		なかよし解散集会	各教室

【世紀小の取り組みより】（○数字は、○校時）

③形態の工夫

・　活動によって、グループの大きさを分ける。（例：若葉台小４３９人）
例：運動会などの学校行事はチーム活動→１００人程度
シンボル作りなどの時はグループ活動→２０人程度
オリエンテーリングなどの時は班活動→１０人程度



④休憩・給食・掃除時間の有効活用

・　業間、昼休憩－班対抗リレー、班遊び
・　縦割り班給食－友だちを身近に感じたり、活動の作戦を考えたりする。
・　そうじ、愛校活動－校舎内外の清掃活動により仲間意識を育て、愛校心を養う。

（２）縦割りをグッズ等の作成

①縦割り班とペア学年の活動

・　運動会、なかよし給食、チャレンジピックは縦割り班で、全校遠足、愛校活動、持久走大会はペア学年で行う。（例：１・６年、２・４年、３・５年）

【賀露小の取り組みより】

②ワッペン作成、旗づくり（旗づくり＋顔合わせ）

・　色画用紙にラミネートし、安全ピンで、帽子につける。（年間を通じて、着用する）

【美和小の取り組みより】

③キャッチフレーズ、プラカード作成

・　合言葉やプラカードを作ることから、所属意識を高める。（なかま、太陽、フレンズなど）

④縦割り班掲示板など

・　児童玄関等に班の得点表、連絡板、班旗を掲示する。（リレーやクイズなど、月ごとにポイントを掲示し、表彰する）

・　各班の集合写真や集会の感想等を掲示する。

※仲間意識の継続的な高まりが期待できる。

【倉田小の取り組みより】

【逢坂小の取り組みより】

（3）まとめ（引継ぎ式）

①トロフィー・賞状・金メダル授与

・　各大会や年間を通しての活動を通じて、適宜表彰を行う。

②振り返りの活用

・　上学年は下学年を、下学年は上学年を意識して、振り返りカードに記入する。それを伝え合うことで高学年はリーダー性を高め、下学年は高学年に対して感謝と憧れを持つことで、次のリーダー育成にもつながる。

3　特色ある活動例

〇国際交流員との活動

・　交流員との遊びを班ごとに考えたり、交流の運営をしたりする。

〇マラソン・すもう大会（駅伝大会）

・　色別対抗戦で、得点をつけ、班ごとに争う。すもうでは、個人戦・横綱戦を行う。（応援には、横断幕を作る）

【湖山小の取り組みより】

〇地域を巻き込んだ活動（つながろう集会）

・　日ごろお世話になっている地域の方を招待し、作った出店で遊んだり、楽しんでいただいたりする。

【稲葉山小の取り組みより】

４　実施上の留意点

（1）メンバー・年間活動計画の決め方

メンバーを決定する際は、**年間の縦割り活動を見通して決定**する。例えば、運動会のリレーやマラソン大会を縦割り班で実施する時は、走力を重視して決定する。兄弟が同じ班になる場合は、学年で話合いを持ち、学校として共通理解をして進める。

子どもたちがいきいきと活動することを目指して、様々な場面（体を動かす、創作活動、勤労活動）を想定し、学校や地域の実態等も考慮して**偏りのないように年間活動を組む**ようにする。加えて、時間数についても職員でよく協議して、常時活動や定期的な活動が位置づけられるようにすることも大切である。

（2）年間掲示（年間の見通しを持たせるために）

６年生を中心に班ごとの高い意識を持続させるために、縦割り班コーナー（掲示）などを使って、年間を見通すことが大切である。各活動に得点を取り入れ一覧表を作ったり、賞状を飾ったりすると効果的である。今の時点での足跡を振り返り、次の活動を意識させることで継続的な活動が可能になる。

（3）問題を抱え込まない体制

活動をする上で大切なのは、職員や子どもたちとのコミュニケーションである。子どもたち（特にリーダーの６年生）とは、**行事前には連絡会を持ち、リーダーが不安なく活動を進められるよう**にしたい。職員間では、行事の内容だけでなく、実施上の細かい点も共通理解し、進められるようにしたい。子どもたち一人ひとりが考え活動することが、よりよい人間関係を作ることにつながる。担当として悩んだり、迷ったりした場合は、職員でよく話合い、よりよい方向に活動が進むようにすることも大切である。

（4）マンネリへの対応

例年通りは後退と考え、新しくできることはないか考える。とりわけ、縦割り活動は、例年通りになりやすい。よって、異学年交流やペア学年交流などを組み合わせていく。異年齢集団活動として構成すると、よりダイナミックな活動が仕組める。活動名は同じでも、内容を精選（学校行事とのタイアップ、活動内容のアレンジ等）し創意工夫をすると、活動がより楽しくなる。要は、「どうしたら力がつくか」「どうすればもっと楽しくなるか」など子どもたちの喜ぶ表情を常にイメージし、**教師自身が楽しむ**ことである。

教室掲示のアイデア

1　教室掲示の意義

子どもたちが、学校生活の中で一日のほとんどの時間を過ごす場は教室である。子どもたちにとって教室は「学びの場」であり「生活の場」であり、ひいては自らの生き方を方向づけていく場にもなる。そう考えると、「たかが教室掲示」では済まなくなる。

もし押しピンがとれて、掲示した絵がはがれたまま１週間過ごせる学級があったとしたら、どうだろう。掲示物が取れてはがれたままになっている学級には、モラルの低下がおこっているであろうし、ルールそのものが崩れてきていると見て取れる。逆に、随時掲示物を更新しレイアウトも工夫してある学級は、子どもたちの姿を見るまでもなく、笑顔あふれる表情が想像できる。つまり、教室掲示は学級経営のバロメーターであり、「破れ窓理論」は教室内でも十分通用することなのである。

子どもたちが目標をもって活動し、友だちと考えを交流しながら自分の成長をふり返り、ときにホッと心が安まる教室を目指すには、とりわけ教室掲示の重要性を再認識する必要がある。年度当初から学級経営方針に教室掲示を位置づけ、年間を見通して継続した取り組みにしていくことが求められている。

2　教室掲示3つのポイント

＜その1＞子どもの事実を掲示する

子どもたちの**成長の様子を具体的事実で示していく**こと。図工や習字作品、各種学習の足跡をその都度更新し、変容の過程を掲示に生かすこと。その際、**学級目標との関連を意識した掲示を工夫する**と、一味も二味も深みが増す。

＜その2＞すべての子の名前がある

教室のあちこちに、子ども一人一人の名前があること。図工や習字作品に名前を付けるのはもちろんのこと、学級新聞や学級の歴史、掲示する学級通信や写真にも**名前が目立つように工夫して載せる**。そうすることで、各自の学級に対する所属感が高まり、他者を受け入れる余裕もできる。なお、名前はすべて「フルネーム」で載せるのも重要なポイント。

＜その3＞継続を掲示する

「継続を掲示する」ことが最も重要なポイントである。それは単に続けることだけではなく、以前より成長した様子が自分にも友だちにも保護者にもアピールする工夫が必要だということである。重ねて掲示する工夫やノートの展示、多くの写真を台紙に貼って写真集にするなど、**変容や成長を意識した掲示**が学級を変えていく。

3　教室掲示の手順

教室掲示を計画するにあたって、まず、**教室全体のレイアウト**を考える必要がある。

＜レイアウト例と留意点＞

＜前面＞「前面には、必要最低限の掲示を」

学習の際、**子どもの視野に入る場所はすっきり**させたい。学級目標等の大切な掲示物もあるが、黒板周りの掲示はできるだけシンプルにしたい。併せて黒板にも、マグネットやネームプレート等を貼っておくことはなるべく避けたい。（ネームプレート等の置き場がない場合は、小黒板を活用）

すっきりと

＜側面＞「側面には、学習の掲示を」

学習に関わるコーナーには、**板書に使った掲示物や板書の写真等をそのまま模造紙などに貼り**、それを掲示しておくと前時のふり返りもしやすい。大切な言葉の所を？マークで隠すなど一工夫をすれば、子どもたちの好奇心をくすぐることもできる。

高学年では、地図や新聞記事を掲示するコーナーなどを設け、シールを貼ったり書き込みをしたりしながら、学習以外にも地域や社会に目を向けさせていくような工夫も必要である。

＜背面＞「背面には、作品掲示または学級の足跡を」

写真にコメントをつけて

月ごとの出来事を金銀銅で

五七五で

その他、教室の側面や背面には、当番や係に関するコーナー、学級会の話合いで決定したことや次回の話合いの予定、学級活動での自己決定目標などを掲示する**学級活動コーナー**の掲示が考えられる。特に高学年では、**子どもたちが主体的に掲示に参画できるように工夫する**必要がある。

また、低学年や特別支援学級の子どもたちにとっては、**見通しがもてる掲示**が大切になってくる。行事の予定が書かれた大きなカレンダーを掲示したり、その日の活動の見通しがもてるように１日の予定を知らせる日課表を掲示したりするなどの工夫をしたい。

4　掲示技術の常識

(1)掲示物はぴんと貼る

掲示の内容や子どもたち一人一人の作品のよさが伝わるように、掲示物は、ゆがみや折れ、しわなどに気にしながら**ぴんと貼ら**なければならない。複数の掲示物を貼る際には、その並び方やバランスを考え、並び方の水平・垂直にも配慮する必要がある。また、掲示物がはがれていた場合には、**その場で直す**。

(2)セロテープを使って貼らない

セロテープは、壁によっては剥がれやすかったり、壁にテープの跡が残ったりするなど、

教室掲示には不向きである。また、子どもの作品に直接貼ってしまうと剥がしにくく、作品をきれいに保存することができない。押しピンで貼るのが基本である。

(3)台紙を使う

習字や版画等、掲示物が薄い紙で破れやすかったり、押しピンで貼りにくかったりする場合には、厚紙、画用紙等の**台紙に貼って掲示する**。子どもの作品を傷めたくない場合にも台紙を使うと作品に押しピンの穴が残らずに済む。また、台紙の色を工夫することで、掲示物に注目を集めたり作品をより目立たせたりする効果がある。

(4)色を統一する

日々目に入る掲示物の色は、学級の雰囲気や子どもたちの学習への集中に影響を与える。子どもたちの実態に合わせ、明るい色、落ち着きのある色等を選択し、**統一した色**で教室環境をつくっていきたい。

(5)余白を生かす

掲示物を敷き詰めてはると、煩雑で一つ一つの掲示の内容や作品のよさが分かりづらい。**余白を生かし**ながら、掲示物をより目立つようにしていきたい。

(6)賞味期限は1ヶ月

教室掲示は、子どもが見て必要感を感じたり、次の活動への意欲をもったりすることができるものでなければならない。同じ掲示物を長く貼っておいても、子どもはすぐに飽きて見なくなってしまう。常設掲示を除いて**掲示物の賞味期限は1ヶ月**。季節や行事、学習に対応しながら、動きや変化のある掲示にしていきたい。

5　教室掲示のアイデア

●ノートの掲示

ノート等を掲示する際、クリップを使い定期的に掲示する。丁寧な字、努力や創意工夫が見られるものを掲示することで､よりよいノートのまとめ方を確認し合うことができる。Ｂ４クリアファイルにコピーを入れて掲示する方法もある。

●コルクボードの活用

掲示スペースがない場合、コルクボードで代用することができる。また、コルクボードを使って「自由コーナー」を作り、係活動のＰＲや新聞記事など何でも掲示できるようにする。ただし、１週間掲示したものは取るようにする。

●子どもの顔つき押しピン

子どもたちの顔写真を名刺大に印刷しラミネートをかけ、裏面に押しピンを付ける。ちょっとした作品掲示の名札の代わりになる。図工で制作途中の作品紹介の名札等にも利用できる。

●ホワイトボードを使った当番活動点検表

１００円ショップでＡ４版のホワイトボードを２枚と直径３～４ cm の丸い磁石を購入する。磁石には一人ずつ名前を書く。子ども達は、一人一役の仕事を終えると、「まだですボード」から「終わりましたボード」へ磁石を動かす。帰りの会で「まだですボード」の子どもに仕事の状況を確認する。帰りの会の後、日直はそれぞれのボードに貼ってある「まだです」と「終わりました」の札を入れ替える。こうすれば、すべての磁石を移動しなくてもよく、当番活動の様子を確認することができる。

●教室に季節感や統一感を

季節の生き物や食べ物等（できれば本物）を教室にさりげなく置く。また、掲示物の色に統一感を出す。色合いはその学級の子どもたちの雰囲気に合わせて決める。

●何でもファイル（高学年向き）

教室の背面や側面に掲示する個人目標をＡ４ファイルに貼り、その下に子ども達が学習で使ったワークシートをすべて綴じて掲示する。クリップを使って、ファイルが簡単に取り外せるようにしておき、子ども自身がワークシートの管理をする。インデックス等で分類・整理しながら自分の取組や成長をふり返ることができ、次の学習や活動に意欲や見通しをもつことができる。また、掲示することで友だちの考えやがんばりも分かる。学年終了時には、そのままファイルとして持ち帰ることができる。

●新聞・地図コーナー（高学年向き）

地域や社会の様子に目を向けさせるために、新聞記事コーナーと地図を掲示しておく。児童が持ってきた新聞記事を貼ったり、地図には学習やニュース等で話題になった場所にシールを貼り、説明を入れるようにする。（地図は１００円ショップで購入）

●予定表（低学年向き）

スケジュールが書き込まれた大きなカレンダーにその日の出来事を残していく。また、毎日、その日の予定が分かるコーナーを作り、朝学校に来たら何をしないといけないのか視覚的に分かりやすいようにする。

例）朝のやくそく
○ ８時まで　しゅくだいを出す。学習のよういをひきだしに入れる。
　　ランドセルをしまう。
　８時１０分まで　ミニトマトに水をやる。
　８時１５分から　読書　　（※　○は名前を書いた磁石）

６　継続した取り組みに向けて

教室掲示は一過性の取組ではない。学級経営方針を基盤として継続してこそ意味をもつ。以下、継続のための手立てを示す。

（1）教師一人でがんばりすぎない

教室掲示は、学級づくりの一部分である。教師一人でがんばるのではなく、**子どもと共に創り上げていく**ということを大切にしていきたい。子どもたちが、掲示の取組を通してよりよい自分、よりよい学級をつくろうという意識を育てていきたい。

（2）コメントは最小限

掲示物へのコメントは、その子の輝きや成長が分かる**短い言葉を選んで書く**ようにしたい。長いコメントは、労力を要し長続きしない。

（3）子どもの見る目を養う

教室掲示を通して、自分・友だち・学級の成長を感じ、ときに、自分たちの課題に気付いていけるようにしていきたい。そのためにも、教室掲示の動きと学級の動きとを**連動させ**ながら、一年間継続して、子どもの動きや変化の表れる教室掲示の取組を行っていきたい。

ルールづくりのアイデア

1 学級のルールづくりの意義

一般的に学級は、同年齢の子どもたちの集団だが、顔を合わせた当初は単なる烏合の衆でしかない。そこに一定のルールと子どもたち同士の人間関係が成立し、一つの集合体として動けるシステムを確立して初めて学級集団となる。ルールは、子ども同士の対人関係をつなぎ、つむいでいく役割をもつものである。

学級のルールには、「教師が定めるルール」と「学級で決めるルール」の２種類がある。前者は、授業日数や時間割から行事のスケジュールなど、学級運営上の枠組みに関わるルールである。後者は、学級で活動する上で欠かせないものではあるが、その学級だけに通用するルールであってはならない。例えば、学級で起こったいじめに対して「２回までは許そう」などというルールは存在しない。必ず、他の学級でも通用するルールでなくてはならない。

こうした学級のルールづくりに取り組む意義は、

学級のルールづくりをとおして、集団を育てる

ことにある。そもそも学級のルールは、「学級生活をより豊かにするためのもの」であり、教師が一方的にルール＝管理というとらえ方のままでいると、「学級にいるのが楽しい」「もっとよい学級にしたい」という子どもたちの豊かな発想は出てこないし、ましてや自主性や自治力を高めることにはつながらない。

そこで、まず担任がすることは、「目指す学級の姿に対する思いや願いを明確に示す」ことである。ただし、問題は必ず起こる。大切なのは、問題が起きたときに教師がルールを振りかざして押さえ込むのではなく、子どもたち自らが問題に気づき、自分たちで解決していけるように道筋をつけていくことである。こうした問題解決のシステムそのものが「学級のルールづくり」であり、システムを動かしていくことが、そのまま集団を育てることにつながる。

2 ルールづくりの手順

ルールづくりに向けた取り組みで、まず構築したいのは「提案のシステム」である。

＜提案のシステム＞の流れ

① 生活をふり返り、みんなが協力し合える過ごしやすい学校や学級をつくるために、今どんなことが問題であるかを考える。

② その中から、最も優先して解決するべき問題を絞り込む。

③ 問題点を解決するための、適切なルールを考える。

まずこの問題を発見し、解決の道筋を学級のみんなで協議していくシステムが動かなければ、問題が生じる度に教師がルールを教え込まなくてはならなくなる。学級ポストやアンケート・学級会は、まさしく活用すべき重要な学級の「提案のシステム」である。

次いで「解決のシステム」は、さらに重要度が高い。

＜解決のシステム＞の流れ

④ みんなで決めたルールを運用する。

⑤ ルール変更のシステムを検討する。

このシステムは、ルールを決めただけで満足するのではなく、「みんなで決めたルールは守ろう、守っていくと自分もみんなも過ごしやすくなる」というような意識をもたせるシステムである。具体的には、ルール定着に向けた呼びかけポスターづくりやキャンペーン活動、帰りの会での確認や評価のために学級会などが考えられる。このシステムは、国の政治に置き換えると行政と司法の部分であり、国の根幹そのものである。それだけに、機能させればさせるほど学級づくり・集団づくりは進んでいく。

3 ルールづくりのアイデア　アイデア（該当学年）

ルールとマナーについてみんなで考え、学級のルールをつくる。（6年）

① ルールとマナーの違いをみんなで話し合う。

② ルールは守らないといけないきまり、マナーはすることで周りの人が気持ちよくなる行いであることを確認する。

③ マナーを中心として、ルールはできるだけ少なくしていくことを確認する。

④ 学習規律のような教師から提示するルールと、児童が話し合って決めるルールを分ける。

⑤ 教師が提示するルールは、何のために必要なのかをきちんと話し、児童にしっかり理解させる。

⑥ 児童が話し合って決めるルールは、全員で守ることを前提に決めさせる。守れそうもないことは決めさせない。

⑦ 帰りの会や学年集会、代表委員会など振り返る場面をつくる。

⑧ １週間、１ヶ月、半年、１年というスパンで見直していく場面を設定する。

学級のルールブックをつくる。（6年）

① ルールを守ることがなぜ必要なのかを考える。

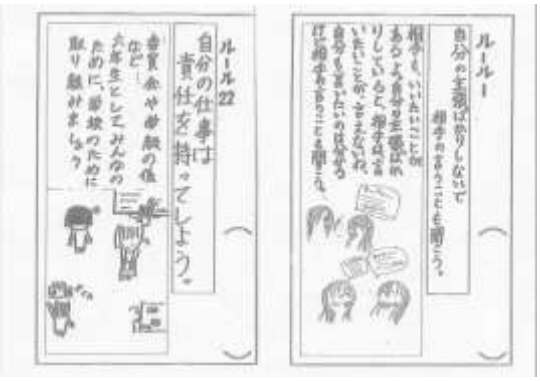
② 「みんなのためのルールブック」（ロン・クラーク）を読み合う。

③ クラスのルールをつくることを確認する。

④ ルールの必要な場面を考え、偏りがないようにルールを考える。

⑤ ルールブックをつくる。

⑥ 今日のめあて等、身近において活用する。



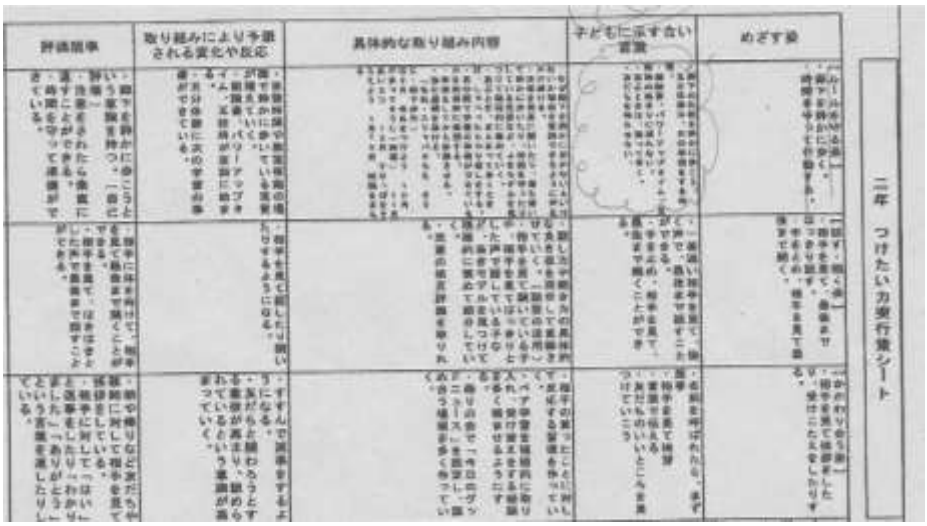
つけたい力　実行策シートを活用して（2年）

① 児童の実態をもとに、どんなルールが必要なのか、また、具体的にどう取り組んでいくのかを考えて、「つけたい力実行策シート」を作成した。

② 学級の課題を出し合い、学級全体で「給食の時間を守る」「掃除を静かにする」等のルールづくりを行った。自分たちにとって必要なルールをどう守っていけばいいのかを話し合った。また、定期的に振り返りをさせるようにした。

③ 「名札をつける」「スリッパをそろえる」「掃除を静かにする」など、強化週間を設けて、それに合わせて、学級全員でめあてが達成できるようにした。

④ 「静かに掃除すること」が徹底できるように、同学年の担任が順番に教室を回り、掃除指導にあたるようにした。他の学級で参考になることを自分の学級でも活用するようにした。



最初の３日でつくる「10のルール」（5年）

1　命を大切にして行動するルール
・危険な行動をしない。させない。見逃さない。

2　友だちを大切にするルール
・「いじめは犯罪である。」ことを確認する。

3　先生も、みんなも時間を守る。
・５分前行動３分前着席。

4　トイレのスリッパをそろえる。

5　朝教室に入る時、「おはようございます。」と言う。

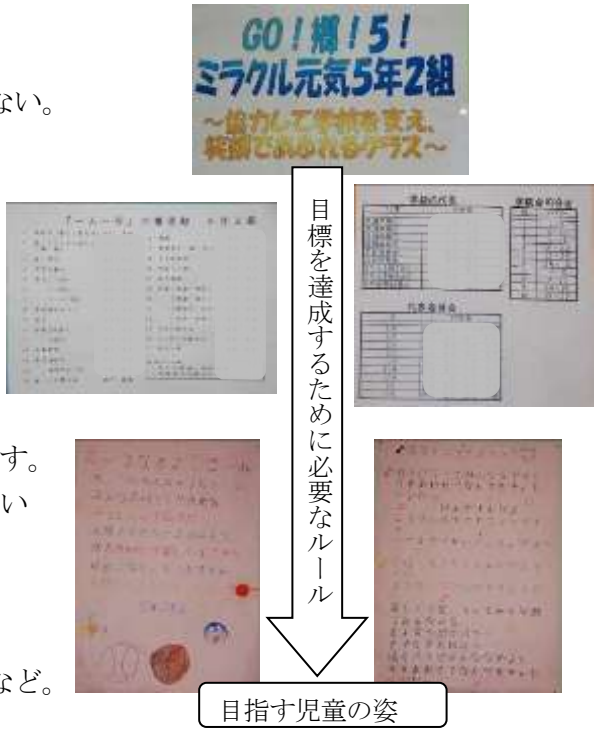
6　「お願いします。」と言って、提出物を出す。

7　プリントをもらったら、「ありがとうございます。」と言う。

8　教室移動のルール
・静かに、はなれず、右側を。

9　遊びのルール・ボールの使い方、遊び方など。

10　持ち物のルール
・筆箱の中身、ランドセルなど。



学級ルールの表現のアイデア（共通）

表現をちょっと変えるだけで、ルールに対するイメージが変わる。ルールは子どもだちを成長させるもの、集団の質を高めるものという肯定的なイメージをもたせたい。

悪口は言わないようにしよう！ ⇨ 言葉は心。やさしい言葉かけが、あなたの心。
そうじ中はおしゃべりしない！ ⇨ 無言そうじは心をみがく　動かせ動かせ手と目と頭
忘れ物をしない！ ⇨ 帰ってからの独り言は「連絡帳にチェックした？」

基本的なルール（例）（共通）

① 机の配置

「○番にしましょう。」と指示すると、子どもたちが机を動かすことができるように、年度当初に約束しておく。（１番：通常、２番：書写、３番：グループなど。）

② 節電、節紙

「毎日のほんのわずかな積み重ねが大切」と、繰り返し指導し、意識を高める。

・電気・・・・・・・・晴れの日は、電気の真ん中のスイッチのみをＯＮ。など。
・扇風機・・・・・・・近くの児童がＯＮ、ＯＦＦ。
・裏紙の使用・・・・・段ボールに入れておいて、いつでも使用可能にしておく。
・ポスターの裏の利用・模造紙や画用紙の代わりに利用。

４ 活用上の留意点

◎ 本当にそのルールが必要なのかどうかを共有化してから、ルールづくりをすること。

→ ルールづくりを子どもたちに任せる場合、そのルールの必要性について、皆が自分の事として受け止めているかどうかを見極めることが大切。なぜそのルールが必要かを発表させ、各自の思いを共有化しておく。

◎ 決めたルールについて、守られているかどうかを確認する仕組みをつくっておくこと。

→ 「守れていない」ことではなく、「守れた」ことに視点を当てること。その際、実現できたことを目に見える形（星マークの掲示、力こぶの表示、達成万歳、達成パーティーなど）で表す。

◎ ルールを守ることで、学級目標が達成できる仕組みをつくること。

→ 学級のルールをつくることが、そのまま学級目標達成に直結しなければ、つくる作業はムダになりやすい。したがって、子ども達にも「ルールづくりは目標達成の手段」ということを話して聞かせることが必要。

◎ ルールはつくりかえさせる。

→ 一旦決めたルールは不変ではない。ルールが実態にそぐわなければ、すぐに変えて良いことを経験させる。変えるたびに、学級集団はまとまっていく。

話合いの手立て・アイデア

１　特別活動における話合い活動の意義

特別活動における「話合い活動」の意義は、話合いをとおして

「集団づくり」と「自分づくり」

の両面に取り組むことにある。

そもそも話合いは、様々な問題を解決する手立てであり、特別活動だけでなくどの教科・領域においても、また多様な生活場面においても使われる。しかし、特別活動における「話合い活動」が他教科・領域の話合いと異なるのは、集団の意思決定（集団決定）をくぐらせる点にある。しかもその集団決定が単なる同意ではなく、学級全員の思い・願い・志を背負って実行される決定であれば、その集団決定はかなりの重みをもったものとなる。そこで担任としては、年度当初から「話合い→折り合い→集団決定→役割分担→協力→実現」という一連の活動をくり返し、「話合い活動」での集団決定が、学級みんなの楽しさや喜びにつながるという成功経験をより多くさせることに心血を注ぐ。そうすると、自ずと学級への所属感や連帯感が高まり、結果として「集団づくり」が進展していくことにつながるのである。

また、「話合い活動」の過程では、集団決定の大切さや喜びが分かるようになるのと平行して「自分づくり」が進み始める。例えば、「自分の意見を主張するだけでなく、友だちの意見を採り入れてよりよい方向へとどう折り合いをつけるか」とか「全体の立場に立った見方・考え方はどうなるか」など、自己の内部で葛藤や共感や他者理解が様々に湧き上がり、「しっかり考えて話合いに臨むのが当たり前」という意識の高まりが出始める。

そして、「話合い活動」をとおして自己決定し、自己決定の内容に基づいて一人一人が努力し始めたとき、自ずとルートが「自分づくり」にも開けていくのである。

２　議題の内容

学級会の議題として採り上げる内容は、

①　学級の児童全員が協力して取り組まなければ解決できない問題

②　児童の発達の段階にふさわしく、解決の方法を見い出すことができる問題

③　教育的に望ましいと認められる問題

が挙げられる。端的には**児童にとって切実感や必要感の問題**であり、児童がそう感じるように教師は導いていく必要がある。議題箱を設置して、その中に書かれているものを採り上げる方法もあるが、教師が「これが問題だ。」とか「これについて話し合う必要がある。」と考えるものに対して、どのように児童たちに必要感を感じさせ、真剣に考えさせるようなアドバイスをしていくかが大事だと考える。

児童から出てくる議題についても、担任が「どのように話合いを進めていったらいいのか。」「話合いの落としどころ（着地点）はどうするのか。」ということもある程度予想しておき、

話合いの進み方をある程度コントロールできるよう、アドバイスを考えておくことも必要である。そうしないと、児童にとって、すっきりしない結論に進むおそれもあり、「本当にこれでいいのか」というような思いが出てくる可能性もある。

学級会で話し合う具体的な内容としては、

① **楽しい学級にするための様々な内容**
② **集会活動の計画**
③ **充実した学級生活を送るためのきまりや創意工夫**
④ **代表委員会への学級としての意見の提案**

などが上げられる。これらは、いずれの場合においても、児童の発意、発想を大切にして取り上げることと、話合いが「集団づくり」と「自分づくり」にどうつながるかをイメージしながら計画的に時間を確保する必要がある。

３　議題のアイデア

＜議題を選ぶ観点＞

学級目標を意識して、**「学級をもっとよくしていくための議題」**を選ばせる。

☆　学級全体でこんなことをすれば、もっと楽しくなるのではないか。
☆　こうすれば、もっと学習（そうじ、男女の仲、雨の日等）がうまくいくのではないか。
☆　今までやってきたことに、こんなことを加えると、きっと変わってくるはずだ。
☆　隣の学級（他の学年）ではこんなことをして上手にやっていた。聞いてみよう。

＜議題例＞

教師側から（学校の問題）	学級の問題（係活動・人間関係）	個人の問題
※　全校が参加する集会、代表委員会の議題、生活における課題など ※　あいさつ、反応・返事、ろうか歩行、雨（雪）の日の室内での過ごし方、給食、そうじの仕方、歯の健康週間、読書月間、給食週間、マラソン週間、収穫祭、プール開き、学校行事に向けて（運動会・遠足・全校集会《イベント》）	・学級の歌、旗、キャラクター、スタンプ、合言葉など ・係の内容と分担 ・席替えの方法 ・議題箱に入っている内容で学級で話し合った方がよいと思われる課題 ・学級全員遊び ・達成記念イベント（準備） ・生活上の問題（言葉遣い、仲間はずし、忘れ物等）	※　個人が抱いている学級や学校生活での困り感から設定する議題。 ※　児童からの訴えがあり、その児童と相談の上で学級で話し合えるように配慮する必要がある議題。

＜留意点＞

☆　季節的な課題もあるので、学校の年間計画に基づいて進めるようにする。その際、道徳との関連を図ったり、クラスの切実な問題を優先したりするなど、柔軟に対応する。

☆　教師の願いと子どもの思いをすり合わせられるような話合いが理想。場合によっては　事前に日記に教師の考えを書いたり、給食時間に班ごとに事前ヒアリングをしたりして**世論形成を仕掛けておく**ことも考えられる。

4　話合いの準備

（1）話合いの流れについて（学年・児童の実態に合わせて）

<table>
<tr><td>議題提出</td><td colspan="2">集まった議題や問題
議題箱
朝の会・帰りの会
日記
先生より
学習ノート　　など
○児童の実態に応じて提案理由などを明確に書くようにする。そのための議題箱や話合い提案用紙を各教室に用意したい。</td></tr>
<tr><td>議題の決定と準備</td><td>1．議題の選定
2．議題の決定
3．議題にならなかった議題や問題をどのようにするのかを話し合う。
4．実施計画を作る。</td><td>＜実施計画の作成＞
○議題と提案理由の確認
○話合いの内容（話合いの柱）を決める。
○司会、黒板記録、ノート記録などの役割分担をする。
○話合い提案用紙を配布し、提案理由や自分の考えを前もって知らせておく。</td></tr>
<tr><td>話合い活動</td><td colspan="2">発表
○事前に用意した自分の意見について伝える。
○友だちの考えを聞きながら、自分の考えを修正したり、付け加えたりする。
○自分のすることをはっきりつかむ。
議長団
○全員の意見を取りあげることができているかを確認する。
○話合いの柱に沿った話合いになっているかを確認する。
○事前にどんな意見が出るかを予想し、話合いの柱について意見が深まるような発問を考えておく。</td></tr>
<tr><td>ふり返り</td><td colspan="2">○話合い活動をふり返る。
・話し手の視点でのふり返り
・聞き手の視点でのふり返り
短時間でふり返るもの、次回の話合いにいかせるものなど、学年や児童の実態に応じて工夫してふり返りをしましょう。</td></tr>
</table>

＜留意点＞

① 議題設定の理由や話し合う事柄を明確にすることが重要

② 話合いを行うにあたり、国語学習とも関連しながら、特に低学年向けに話し方（言葉遣い、話型）を提示し、自分の考えや思いが相手に伝わりやすくなるような言葉を使って話せるようにする。

③ 意見が出にくいときは隣近所の友だちと話したり、小グループで話し合わせたりする時間を設定して、それぞれの意見がまとまってから、全体での話合いに進む。

④ グッズ（賛成反対カード）を用いて一人ひとりが意志表示を出せるようにする。

⑤ 事前に議題を知らせておき、それぞれで考えてくるようにすることもある。

５　話合い活動を支えるアイデア

アイデア１　　**１年間の使うものとして（黒板掲示）**

１年間、話合い活動の骨子になるものである。話合い活動で、子どもたちが自分たちで黒板のレイアウト（板書）ができるようにする。１年間使うことができるようにラミネートをし、磁石にはっていつでも使える場所に保管するようにする。

アイデア2　　**１年間の使うものとして（机札）**

役割分担を明確にするために、机札を作る。それだけでなく、これがあるだけで子どもたちのモチベーションをあげることができる。これもいつでも使える場所に保管するようにする。

アイデア3　　**１年間の使うものとして（議題カード）**

議題カードも議題箱と一緒に必ず教室に置いておきたい。いつでも子どもたちが自由に議題カードを入れる環境を作ることは議題の多様性、速効性など子どもたちのニーズに応えることになり、必要感を生むことができる。また、マンネリ化を防ぐことができる。１つの方法として、集会、生活向上など議題カードを色分けしておくと、より効果的である。

アイデア4　　**１年間の使うものとして（話し合いの柱と賛成・反対掲示）**

話合いの柱については議長団が決定したものを話合いまでに黒板等に掲示するようにし、見通しを持たせるようにしたい。

また、賛成・反対については立場が視覚的に分かりやすくするために色を使い分けて黒板掲示をするようにする。

アイデア5　　**１年間の使うものとして（話し合いの文化を残す掲示）**

１年間の話合いの様子や議題を写真を交えて残すことは学級文化を創造することにもつながる。また、この積み重ねにより、児童が見通しを持つことにもつながり、高学年では委員会活動や学校行事等との関わりを重視した話合い等に展開することもできる。

６　役割について

○議長（司会）・・・主に話合いの司会をする。

○意見を出してもらうために	・自分で（　　）分、考えてください。 ・グループで話し合ってください。 ・出た意見について、賛成、反対意見はありませんか。
○いろいろな意見が出たとき	・○○さんの意見をまとめてくれませんか。 ・もう一度、みんなに分かりやすく話してください。 ・○○さんの意見について、意見はありませんか。 ・今、出ている意見を整理したいと思います。
○意見をまとめるとき	・多数決は最終手段であり、できるだけしません。 ・みんなの意見をつなぎ合わせたり、取り入れる方法を考えたりします。
○話合いの順序に沿って進めるために	・今・・・を話し合っているので、その意見は後で出してください。 ・その意見は、今の話合いのどこと関係があるのか、もう少し説明をしてください。

○副議長（副司会）・・・議長の補佐、発言記録、計時等を行います。

○発言記録をとります。	・できるだけ多くの人が発言できるように気を配ります。 ・たくさん発言をしている人には、発言を待ってもらったり、発言をしていない人に指名をしたりします。 ・名簿等に発言した人をチェックして、みんなが意見を出すことができているかを確認します。
○時間をはかります。	・時間内に終わるように、それぞれの話合いの柱にどれだけの時間をかけるのかを考え、議長に知らせます。
○注意をします。	・話合いに参加していない人やふざけている人を注意します。
○議長が困っていたら・・・	・進め方の相談にのります。

○書記（記録）・・・黒板記録、ノート記録に分かれて、記録をとります。

○黒板書記	・議題や話合いの柱について、前もって黒板に書いておきます。 ・出た意見については短くまとめて書きます。 ・賛成、反対意見について色を変えるなど工夫して分かりやすくします。 ・決まったことを分かりやすく書きます。
○ノート書記	・話合いノートに出た意見などをまとめます。後で振り返っても分かるように記録します。 ・今日の話合いで決まったことをみんなに知らせます。

＜議長団のこころえ＞

①　いばらない。　②　話合いの結果をかえない。　③　話合いからそれたら、元に戻す。
④　一部の人の意見ではなく、みんなの意見を取り上げる。
⑤　とびすぎの意見は後まわし。　⑥　ときどき、まとめて知らせたり、整理をしたりする。
⑦　わかりにくい意見は言い直す。　⑧　くいちがった意見は２つならべて知らせる。
⑨　一つ一つ決めて進める。　⑩　最後にまとめをする。

＜みんなのやくそく＞

① 発言をゆずり合おう。 ② 人の意見を最後まで聞いてから発言しよう。

③ だれが何と言っても、正しいと思うことは遠慮しないで発言しよう。

④ 友だちの発言を笑ったりしない。 ⑤ みんなで決めたことはきちんと守り、実行しよう。

7 求めたい「子どもの発言」例

話合いの質は、子どもたちが使う発言の質にも左右される。その点、教師は、以下のような発言が話合い（学級会に限らず）の中で出てきたときを見逃さずに話形を指導したり、「こんな発言ができるようになるとレベルが上がるよ。」と以下のような話形そのものを指導したりすることも必要である。

① 友だちの意見を深め、つなぐ発言

・「Aさんの意見は、こうすればもっとよくなると思います。」

・「Bさんの意見を聞いて考えが変わりました。わたしも～だと思います。」

・「Cさんは、こういうことが言いたかったんだと思います。」

② 建設的な発言

・「Dさんの意見もいいと思いますが、わたしは、〇〇のようにするともっといいと思います。理由は～ だからです。」

・「Eさんの意見を聞いて思ったのですが、こうしてみたらどうですか。」

③ 進行を助ける発言

・ 「司会者さん、ちょっととなりの人と話し合う時間をください。」

・ 「時間が残り少ないので、あとは司会団が給食時間に話し合って、その結果を言ってもらったら、それに賛成します。みんなはどうですか？」

8 活用の留意点

＜議題ポストの活用＞

「ポストになかなか議題が入らない」ということがある。その場合、例えば「**ポストの名前を考えよう**」という議題での話合いや、何度か「**議題投入経験**」と称してみんなで提案用紙に書いて入れる経験、場合によっては上学年や他学級の**議題取材**などもきっかけになる。

＜計画委員会の時間の取り方の工夫＞

「始業前・休憩時間・放課後は、事前打合せに最適の時間」という意識を年度当初から持たせておくことが必要。時には、給食の時間も活用する。その際、別室で「**特別ランチミーティング**」と名付けて話合いへの期待感を盛り上げるとよい。

＜司会者の育て方＞

〇 話合い活動の司会団は、**輪番制**が望ましい。小学生年代では「**場面リーダー**」として、様々な活動場面ごとにリーダーの経験をさせたい。

〇 どの学年でも、まず初めに**教師が司会をして手本を示す**ことが必要。場合によっては、フロアーで手を挙げ、児童として発言を求めたり、司会者に進め方について発言したりすると、話合いのよいイメージがつかみやすくなる。

＜話合いにおける教師の出番＞

○「教師の出番がない」ことが理想的だが、**「初めはちゅうちょせずにどんどん出る」**ことで子どもたちに話合いのイメージをもたせることが必要。

○**【出番のきっかけ】**

・子どもの発言の中身がよくわからなかった場合。
・内容が横道にそれたり、行き詰まった場合。
・簡単に決めようとして話合いに深まりがない場合。
・意見が対立して収拾がつかなくなった場合。
・自治的活動の範囲を越えそうな場合（時間割の変更、お金や命に関わる内容など）。
・助言やアイデアを言うことで、自主性や自立心が高まると判断できる場合。

＜集団決定の方法＞

「**多数決は、小学校段階では極力用いない**」ことを基本線とした方がよい。それは、決定の方法より話合いの過程・内容を大切にしたいからである。多数決は、多数決を用いなければ決まらないような議題で話合う採決に必要な方法であり、小学生段階でそれほどの議題はなかなかつくれないというのが実情であろう。むしろ、話合いの過程で**「折り合う力」**をつけていくことが求められている。

【決め方】

司会：　たくさんの考えが出ていますが、今のところでA～Dまでの考えのどれに賛成か決めてください。２回まで手を挙げてもいいです。（しばらく時間をおく）
記録：　Ａ－１５人、Ｂ－０人、Ｃ－５人、Ｄ－８人
司会：　今のところAが一番多く１０人、Bが０人です。Bはとりますが、良いでしょうか。（フロアーに確認する）では、Ｃ・Dの人は意見がありますか。
Ｃ１：　Ｃは～だから、是非やってみるといいと思うのですが、みんなどうですか？
Ｄ１：　Ｄもけっこう面白いと思ったのですが、Ｃ１さんの考えを聞いて、よいと思ったのでCの意見に変えます。
Ｄ２：　ぼくもCの意見に変えます。
Ａ１：　わたしもＣ１さんの考えが凄くいいと思ったので、Ｃに変えます。
司会：　意見が変わってきた人がいるようなので、２回目の人数を調べます。今度は１回だけ手を挙げてください。
記録：　Ａ－２人、Ｃ－１２人、Ｄ－２人
司会：　意見が変わった人が多くなりました。だれか、どうして変わったか、理由を言ってもらえませんか。
Ａ２：　やっぱり決め手は～です。学級目標の「○○」にもピッタリです。
司会：　Ｃの考えに賛成の人がかなり多くなっていますが、Aの人やDの人はもう意見はありませんか。ではCに決めます。（納得してうなずいているのを確認してから）
最後までAだった○○さん。今の気持ちをみんなに話してくれませんか。

＊　特に考えが変わった子に、その理由を聞くことを重要視する。
＊　黒板に変化していく人数を、見え消しで記録する。
＊　変わらない子に幾度も確認し、納得の上で集団決定する。
＊　決定後にも指名して思いを聞いておく。

計画表、話合い提案用紙例
（低学年用）

月　　日（　　）　**だい（　　）かい　　がっきゅうかいカード**

名まえ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

① ぎだい（はなしあうこと）

かつどうのめあて

② じぶんのかんがえ（いけん）

③　きまったこと

☆　ふりかえりチェック　☆

クラスがよりよくなるようにかんがえることができましたか。◎　○　△

ともだちのいけんをさいごまできけましたか。　◎　○　△

じぶんのかんがえをすすんでいえましたか。　◎　○　△

○また、じぶんのがんばったことやともだちのよかったことをかきましょう。

がっきゅうかつどうふりかえりカード

ねん　　くみ　（　　）

＜ぎだい＞

☆　はなしあいできまったことをじっこうしてみて、どうでしたか？

★　むずかしかったな、たいへんだったなとおもったことはどんなことですか。

☆　ともだちのすがたで「すごいな」「がんばっていたな」とおもったことをかきましょう。

（中学年）

＜し会だんカード＞　　第　　回　　学　級　会

ぎだい				
ていあん 理由 （　　）				
話合いのめあて				
役わり 分たん	し会		黒板	
	ふくし会		記録	

内　　容	時間	じゅんび　・　そのた
１．始めの言葉 ２．役わりしょうかい ３．ぎだいのかくにんとていあん理由の説明 ４．話合いのめあてのかくにん ５．話合い （1） （2） ６．決まったことと感想の発表 ７．先生のお話 ８．終わりの言葉		

月　　日（　　）　　**第（　　）回**　　**学級会カード**

名　前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

① ぎだい（話し合うこと）

活動のめあて

③ 自分の考え（意見）

〈話合いの柱①〉

〈話合いの柱②〉

④ 決まったこと

〈話合いの柱①〉

〈話合いの柱②〉

☆　ふりかえりチェック　☆

クラスがよりよくなるように考えることができましたか。	◎	○	△
友だちの意見を最後まで聞けましたか。	◎	○	△
自分の考えを進んで言えましたか。	◎	○	△

○また、自分のがんばったことや友だちのよかったことを書きましょう。

学級活動ふり返りカード

年　　組　（　　）

＜議題＞

☆　話合いで決まったことを実行してみて、どうでしたか？

★　むずかしかったな、大変だったなと思ったことはどんなことですか。

☆　友だちの姿で「すごいな」「がんばっていたな」と思ったことを書きましょう。

ぎだいカード（話合い用）

＜話し合いたいこと＞

＜話し合いたい理由＞

月　　日（　　）

名前（　　）

ぎだいカード（集会用）

＜話し合いたいこと＞

＜話し合いたい理由＞

月　　日（　　）

名前（　　）

第　　回　　学級会　話合いの計画

期日　　平成　　年　　月　　日（　　）曜日

<table>
<tr><td colspan="5">第　　回　学級会　話合いの予定　　年　　月　　日（　　）</td></tr>
<tr><td>議題</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>提案
理 由</td><td colspan="3"></td><td>提案者</td></tr>
<tr><td colspan="2">議長</td><td>副議長</td><td>黒板書記</td><td>ノート書記</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4">（話し合いの順序）
１　はじめの言葉

２　議長団の紹介
３　議題の確認

４　提案理由の説明

５　話合い
①

②

③

６　決まったことの確認

７　先生のお話

８　終わりのあいさつ</td><td>時間</td></tr>
</table>

１　第　　回　　学級会　話合い

平成　　年　　月　　日（　　）曜日

２　議題名

３　学級会の進行

議長	副議長	黒板書記	ノート書記

４　議題に対しての質問や意見および理由

○

○

（メモ）

５　第　　回　　学級会　話合いで決定したこと

６　振り返り
○でかこみます

Ａ　Ｂ　Ｃ

学級活動ふり返りカード

年　　組　（　　）

＜議題＞

☆　話合いで決まったことを実行してみて、どうでしたか？

★　むずかしかったな、大変だったなと思ったことはどんなことですか。

☆　友だちの姿で「すごいな」「がんばっていたな」と思ったことを書きましょう。

学級会　話合い提案用紙

月　日　提案者

○議題（学級のみんなで話し合いたいことがら）

○提案理由

……きりとりせん……

さんが　　月　　日に出してくれた

についての議題は

①（　　）朝の会か帰りの会で話し合います。

②（　　）係・（　　）当番にお願いしました。

③（　　）学級活動の話合いで、話し合うことになりました。
もう一度、提案理由を整理して用意しておいてください。

④（　　）先生に解決してもらいます。

⑤（　　）その他

☆ご意見ありがとうございました。

あ と が き

『学級経営ハンドブック』ができあがりました。「これまでに語り継がれ、受け継がれてきた教師の文化を集約し、これからに役立つ学級経営のハンドブックを作成する」というねらいで編集を続けてきてようやく完成した、鳥取市小教研特別活動部全員のアイデアの結晶です。

内容は、学級経営や特別活動を行う上で重要な「１０の活動」について、各先生方の智恵と技とアイデアを集約したものになっています。これまでにない画期的な取り組みですから、一読して早速実践してみたい内容ばかりだと思いました。

どうか手にとって読んでいただき、一つでも二つでもご自分の学級経営に取り入れ、実践し、改善してみてください。多くの実践と改善を通して初めて、よりよい学級経営・特別活動につながっていくと思います。そうして重ねた努力が、必ずや鳥取市全体における学級経営や特別活動のレベルアップにつながっていくものと信じています。これまでも、そしてこれからも先生方の「なすことによって学ぶ」教育活動の方法原理が、鳥取市の教育の支えなのです。

編 集 委 員

田中　　健（佐治）	豊福　　聡（湖南学園）	吉田　淑子（面影）
伊奈垣真吾（城北）	下田万起子（富桑）	森下　人志（宮ノ下）
本田　暢彦（附属）	浅井　寛恵（宝木）	江谷　成史（青谷）
田住　高章（河原第一）	中澤　達也（美保南）	宮前　直行（若葉台）
広沢　栄貴（中ノ郷）	松林　隆裕（明治）	中野　克彦（佐治）